○委員子爵堀河護麿　未成年者ノ飮酒取締ハ學生ノ風紀取締上ニ關シ如何ナル影響ヲ及ホスヤ文部省ノ政府委員ノ說明ヲ求ム

○政府委員田所美治　此ノ法律案ニ關シテハ衆議院ニ於テモ述ヘタルカ如ク青年學生ヲ取締ルニ付裨益スル所アルハ固ヨリ言ヲ俟タス文部省ニ於テハ明治四十二年ニ於テ各學校ニ對シテ訓令ヲ發シ學校職員ト家庭トノ連絡ヲ圖リ以テ常ニ飮酒ノ取締ヲ爲スヘキコトヲ注意シ居ルモ此ノ法律案ノ實施セラルルニ至ラハ該訓令ト相俟チ相援ケテ更ニ其ノ效果ヲ收ムルコトヲ得ヘシト信ス故ニ文部省ニ於テモ此ノ法律案ニ同意ヲ表シタリ

○委員子爵堀河護麿　文部省ハ上ハ帝國大學ヨリ下ハ小學校ニ至ル迄ノ各學校ニ向ヒテ訓令ヲ發セラレタリヤ

○政府委員田所美治　明治四十二年文部省訓令第十二號ヲ以テ北海道各府縣公立私立各學校ニ於テ學校生徒ノ飮酒取締ニ付學校ト家庭ト聯絡ヲ保ツヘキコトヲ命シタリ然レトモ文部省直轄學校ニ在リテハ其ノ生徒ハ多クハ成年以上ノ者ナリ故ニ各學校ニ於テ相當ノ注意ヲ爲シ居ルハ勿論ナリ之ニ對シテハ特別ニ訓令ヲ發セスシテ唯監督ヲ爲シツツアルニ過キス

○委員大澤謙二　酒ヲ飮ムカ爲ニ人ヲ殺シ人ヲ傷ケ其ノ他違警罪等ノ罪ヲ犯シタル事實ノ統計ノ如キモノヲ調査セラレサリシヤ

○政府委員古賀廉造　調査シタルモノナシ或ハ司法省ニ於テハ之ヲ有スヘシ

○委員大澤謙二　警視廳ニハ之ヲ有セサルヤ

○政府委員古賀廉造　調査シタルモノナシ

○委員伯爵柳原義光　元來本案ノ目的トスル事項ハ敎育上ニ於テ取締ルヘキモノナルヘク又文部省ニ於テハ斯カル法律ナクトモ取締ノ不可能ナルニハアラサルヘシ果シテ此ノ法律案ト相俟チ相援ケテ取締ルニアラサレハ其ノ效果ヲ擧クルヲ得サルカ

○政府委員田所美治　學生ニ對シテハ法律ノ有無ニ拘ラス訓令ヲ以テ又訓令ヲ以テセストモ相當ノ取締ヲ爲スコトヲ得ルモ唯學生以外ノ未成年者ニ對スル取締ハ文部省ノ所管ニ屬セサルカ故ニ之ヲ如何トモスルコトヲ得ス

○委員伯爵柳原義光　憲法發布ノ際ニハ本員モ學生ナリシカ當時學生ニ於テモ隨分大盃ヲ擧ケタルコトアリ文部省ニ於テハ斯カル場合ニモ嚴密ニ取締リ居ルヤ

○政府委員田所美治　記念日祝祭日等ニ於テハ隨分左樣ナ事アリ斯カル場合ニ付テハ文部省ハ之ヲ看過シ居レリ

○委員山田春三　前ニ示サレタルハ明治四十二年ニ於ケル未成年者喫煙禁止法違反ノ件數ナリ明治四十三年同四十四年ニ於ケル違反件數如何

○政府委員古賀廉造　格別ノ相違ナシ此ノ頃ハ特ニ該法律ヲ勵行スルコトニ注意シ居レリ

○委員伯爵柳原義光　此ノ法案ト相似タル未成年者喫煙禁止法ノ違反者ニ對シテハ平均何程ノ科料ヲ科セルヤ其ノ額ヲ示サレタシ

○政府委員古賀廉造　科料ノ平均額ハ表ヲ作成セハ貴覽ニ供スルコトヲ得ルモ今此ノ席ニテハ答フルコトヲ得サルナリ

○委員男爵久保田讓　本案ニ付テハ他日更ニ開會セラレ嚴密ニ調査セラレムコトヲ希望ス

○委員長伯爵徳川達孝　久保田男爵ノ動議ニ異議ナキヤヲ諮フ

異議ナシ

○委員長伯爵徳川達孝　散會ヲ命ス

散會　午前十一時四十五分

第二回　明治四十五年三月六日

出席委員

委員長　伯爵　徳川達孝　　副委員長伯爵　柳原義光

委員　侯爵　花山院親家　　同　子爵　堀河護麿

同　男爵　久保田讓　　同　折田彦市

同　徳富猪一郎

出席委員外議員

男爵　關義臣　　男爵　岩倉道倶

出席政府委員

内務省警保局長　古賀廉造

文部省普通學務局長　田所美治

開會　午前十時三十分

○委員長伯爵徳川達孝　開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵徳川達孝　委員外議員男爵關義臣ハ同男爵岩倉道倶ヨリ本案ニ付テ意見ヲ述ヘタキ旨ノ要求アリ之ヲ許可シテ異議ナキヤヲ諮フ

異議ナシ

○委員折田彥市　本員ハ前囘ニ闕席セシカ故ニ本案審査ノ程度ニ付テハ之ヲ知ルヲ得サリシモ茲ニ政府委員ニ對シテ質問ヲ爲シタキハ此ノ法律案ト最類似セル未成年者喫煙禁止法實施上ノ經過ナリ政府ハ此ノ法律ヲ以テ禁セラレタル未成年者ノ喫煙ヲ十分ニ取締リツツアリヤ

○政府委員古賀廉造　其ノ件ニ關シテハ前囘ニ於テ概略說明ヲ爲シ且違反者ノ數ヲモ表ヲ示シテ答辯シタルカ如ク或縣ノ如ク僅ニ一二件ニ過キサル所モアリ或縣ノ如ク頗多數ニ上ル所モアリ府縣ニ依リテ違反者ノ數ハ不同ナリ

○委員折田彥市　元來本案ノ目的トスル事柄ハ行政處分ヲ以テ取締ルコトヲ得ヘキモノニアラスヤ

○政府委員古賀廉造　然リ行政ノ作用ヲ以テ取締リ居ルモ本案ノ如キ法律ヲ以テスレハ尙能ク取締ノ效果ヲ收ムルコトヲ得ヘシ明ニ飮酒ヲ禁シタルトハ異ルモ現ニ各府縣ニ於テハ未成年者ノ貸座敷ニ登樓スルヲ禁シタル所モアリ蓋斯ノ如キハ未成年者ノ風紀ヲ取締リ旁以テ飮酒ノ弊ヲ豫防スルモノナリ

○委員折田彥市　未成年者ノ飮酒ノ弊害ヲ取締ル爲ニハ是非トモ斯ノ如キ法律ヲ必要トセラルルヤ

○政府委員古賀廉造　大體ニ於テハ警察令ヲ以テ取締ルコトヲ得ヘキモ十分ノ效果ヲ收ムルニハ斯カル法律ヲ以テスルヲ可トス

○政府委員古賀廉造　前囘ニ於テ質問ヲ受ケタル飮酒ノ爲ニ罪ヲ犯シタル者ノ數ハ全國ニ亙リ統計ニ依リテ之ヲ報告スルヲ得サルモ唯一部ノ割合ヲ述フレハ約五萬ノ犯罪者ノ中ニ飮酒カ其ノ動機ヲ爲シタルモノ約千二百以內ニ過キス

○委員子爵堀河護麿　其ノ千二百以內ノ數ハ未成年者ノミナラス成年者ヲモ包含スルヤ

○政府委員古賀廉造　然リ

○委員子爵堀河護麿　其ノ千二百以內ノ中ニテ未成年者ノ數ハ幾何ナリヤ

○政府委員古賀廉造　其ノ數ハ不明ナリ

○委員男爵久保田讓　本案カ法律トナリテ實施セラルルニ至ラハ政府ハ取締ヲ厲行セラレサルヘカラサルハ言ヲ俟タスト信ス而シテ本案ハ年年衆議院ヨリ提出セラルル所ニシテ政府ノ之ニ同意セラルルハ政府ハ單ニ斯カル法律ノ存スルハ無キニ優ルノ意味ニ於テ贊成セラルルカ或ハ衷心之ヲ希望セラルルモノナルカ頗不明ナリ依テ茲ニ答辯アラムコトヲ望ム

○政府委員古賀廉造　政府ニ於テ絕對的ニ此ノ法律ヲ必要ト認ムルトキハ旣ニ其ノ案ヲ提出スヘ

カリシナリ然ルニ敢テ提出セサリシヨリ見レハ政府ノ意思ノ存スル所ヲ推知スルコトヲ得ヘシト信ス

○委員男爵久保田讓　文部省ノ本案ニ對スル意見如何

○政府委員田所美治　既ニ内務省ニ於テ未成年者飮酒禁止ノ取締ヲ爲ス以上ハ教育上ニ於テモ頗有力ナル援助ヲ得ルコトトナリ學校ノ取締モ亦從テ其ノ效果ヲ擧クルコトヲ得ヘキモノナリト信スルカ故ニ本案ニ贊成シタリ

○委員男爵久保田讓　田所政府委員ノ答辯ハ稍明瞭ヲ闕クノ感アリ尚一應明確ニ斯カル法律ノ必要ヲ感セラルルヤ又ハ有ルハ無キヨリ優ルノ意味ニ於テ贊成セラレタルニ過キサルカヲ説明セラレタシ

○政府委員田所美治　要スルニ此ノ取締ヲ厲行スルコトヲ得ル以上ハ幾分ニテモ明治四十二年ノ訓令ト相俟テ相援ケテ教育上ニ好結果ヲ生スヘキモノト信スルカ故ニ其ノ必要ヲ感セサルニアラス

○委員折田彥市　中學校以下ノ學校ハ多ク未成年者タル生徒ヲ收容スルカ故ニ此ノ法律案ヲ以テシテ此等生徒ノ飮酒ヲ取締ルコトヲ得ヘキモ其ノ程度以上ノ學校即專門學校又ハ高等學校等ニ

於テハ其ノ生徒ハ未成年者ト成年者ト相混スルモノナリ此等ノ學校ノ生徒ニ對シテハ如何ニシテ取締ヲ爲サルルヤ頗困難ノコトナルヘシ

○政府委員田所美治　此等ノ學校ニ向ヒテハ生徒ノ未成年者タルト成年者タルトヲ問ハス全體ニ付飮酒ヲ取締ルノ外ナシ北海道及各府縣ノ學校ニ收容スル生徒ハ多ク未成年者ナルカ故ニ訓令ヲ以テ飮酒ノ弊害ヲ取締リタルモ直轄學校ハ多ク成年以上ノ生徒ヲ收容スルカ故ニ前回ニモ述ヘタルカ如ク特ニ之ニ對シ飮酒ニ關シテ訓令ヲ發シタルコトナシ但シ其ノ一般ノ監督ハ固ヨリ種種ノ方法ヲ以テ爲シツツアリ

○委員外議員男爵岩倉道倶　未成年者ノ飮酒ヲ取締ルカ如キハ元來學校及家庭ニ於ケル教育ニ委スヘキモノニシテ法律ヲ以テ爲スヘキコトニアラス我國ノ現狀ハ法律ヲ以テ未成年者ノ飮酒ヲ取締ルニアラサレハ其ノ弊害ヲ防止スルヲ得サルニ至レリヤ

○政府委員古賀廉造　前ニ述ヘタルカ如ク飮酒ニ因リ罪ヲ犯シタルハ約五萬ノ犯罪者中ニテ僅ニ千二百以内ニ過キス而カモ其ノ千二百ノ中ニハ成年者モヲ包含ス斯ノ如キ現象ナレハ法律ヲ以テスルニアラサレハ未成年者ノ飮酒ノ弊ヲ防クヲ得サルモノトハ認メス

○委員男爵久保田讓　飮酒ノ爲ニ罪ヲ犯シタル者ノ割合ノ少數ナルハ決シテ此ノ法律案ノ必要ノ

有無ヲ決スルニ足ラス抑犯罪ハ結果ナリ社會ノ表面ニ現出シタル一部ニ過キス本案ノ目的ハ斯カル枝葉ノ點ヲ問フモノニアラス飮酒其ノモノノ弊害ヲ矯正セムトスルモノナリ

○政府委員古賀廉造　如何ニモ然リ

○委員長伯爵德川達孝　本案ニ對シテハ既ニ質問盡キタルヲ以テ直ニ討議ニ移ラムコトヲ諮ル

異議ナシ

○委員伯爵柳原義光　本員ハ本案ニ反對ス元來飮酒ノ弊害ハ敢テ未成年者ニ限ラス成年者ト雖之カ爲ニ身體ヲ損シ或ハ墮落スルモノ固ヨリ尠カラス故ニ此ノ法律案ノ精神ニハ贊成ノ意ヲ表スルニ吝ナラサルモ斯ノ如キ事柄ハ法律ヲ以テ律スヘキモノニアラスシテ寧敎育ノ力ヲ以テ矯正スヘキモノナリ而カモ此ノ法律案ハ未成年者ノ飮酒ヲ禁スルニアラスシテ唯之ニ酒類ヲ供給スル者ヲ罰スルニ過キス蓋未成年者ノ飮酒ノ弊害ヲ豫防セムトスル法律アルニ拘ラス未成年者ハ公ニ之ヲ飮ムモ差支ナシト謂フニ等シク其ノ結果青年ヲシテ自ラ法律ヲ輕スルノ傾向ヲ生セシムルニ至ルノ虞アリ本員ハ又本案ニ類似セル未成年者喫煙禁止法ヲモ廢止スヘキモノナリトノ意見ヲ有ス思フニ政府ハ未成年者喫煙禁止法ノ施行ニ付テモ頗不熱心ナルヤノ感ナキ能ハス聞クカ如クムハ此ノ法律ノ適用ヲ受ケ處分セラレタル數ハ各地方ニ依テ同シカラス或縣ニ於テハ

僅ニ一二件ニ過キサル所モアリト謂フ而シテ其ノ數ノ差異甚シキモノアルハ各府縣知事ノ之カ取締ニ熱心ナルト否トニ因ルヤノ感ヲ抱カシムルニ至テハ益之ヲ不必要ナリトスルノ意ヲ强ウセサルヲ得サルナリ要スルニ斯ノ如キ區區タル事ハ學校及家庭ノ敎育ニ依テ矯正セラルヘキモノニシテ法律ヲ以テ取締ルヘキ性質ノモノニアラス外國ニ於テハ法律ヲ以テセルノ例ナキニアラサルモ我日本ノ現狀ニテハ未之カ必要ヲ感スルニ至ラス寧之有ルカ爲ニ青年ヲシテ法律ヲ輕スルノ惡弊ヲ生セシムルノ虞アリ是レ最愼ムヘキコトナリ

○委員男爵久保田讓　本員ハ本案ニ贊成ス蓋本案反對ノ理由二アリ其ノ一ハ斯ノ如キ取締ハ學校及家庭ノ敎育ニ委スヘキモノニシテ法律ヲ以テ律スヘキモノニアラス又他ノ一ハ假ニ法律ヲ以テスルモ斯ノ如キ事ハ十分ニ取締ルヲ得ス結局法律ヲシテ空文徒法ニ化セシムルニ至ルヘシト其ノ他ニモ理由ナキニアラサルモ其ノ重ナルハ此ノ二點ナリ本員ハ全然之ヲ否定スルモノニアラス併ナカラ未成年者ハ學校及家庭ノ監督内ニ於テノミ活動スルモノニアラス廣キ社會ニ於テ活動ヲ爲スヘキコトアリ故ニ學校及家庭ノ監督ノ外ニ社會ノ方面ヨリモ能フヘキ限リ其ノ弊ヲ防止スルニ努メサルヘカラス是レ敢テ獨飮酒ノ弊ノミニ限ラス苟モ德義心ヲ增長シ善良ノ風紀ヲ維持セムトセハ總ユル方面ヨリ之カ取締ヲ嚴ニセサルヘカラサルナリ學校及家庭ノ敎育ヲ以テ

萬能ナリト思惟スルハ固ヨリ誤謬ナリ故ニ未成年者ニ飲酒ノ弊害アルコトヲ認ムル以上ハ法律ヲ以テ之ヲ取締ルモ決シテ不可ナルニアラス況ヤ政府ニ於テモ既ニ此ノ法律案ナラハ取締ルコトヲ得ヘシト明言セラレタルニ於テヲヤ若假ニ取締ルコトヲ得サルモノトスルモ斯カル法律アラハ學校及家庭ニ於テ尚能ク其ノ教育ノ實效ヲ收ムルコトヲ得ヘキニアラスヤ加之我國ノ家庭ニ於テハ父兄ニシテ未其ノ子弟ノ模範タルヲ得ル者尠シ故ニ此ノ法律アラハ父兄モ子弟ヲ教育スルニ頗便宜ヲ得ルニ至ルヘシ其ノ必要既ニ斯ノ如シ是レ本員ノ本案ニ贊成スル所以ナリ尚終ニ附加スヘキハ反對論者ハ或ハ本案ハ昨年既ニ否決セラレタリ特ニ事情ノ變化ナキ限リハ本年モ亦否決セラルヘキモノナリト信セム然レトモ昨年ノ思想ハ本年ノ思想ニアラス昨年否決セラレタルカ故ニ本年モ亦否決セラレサルヘカラサルノ理由ナシ又本案ハ年年衆議院ヨリ提出セラレタルモノナリ宜シク發議者ノ熱心ト衆議院ノ院議トヲ重シ本院ヲ通過セシムヘキモノナリト信ス

○委員外議員男爵關義臣　柳原伯爵及岩倉男爵ノ本案反對意見ヲ傍聽シタルニ未成年者ノ飲酒ヲ取締ルカ如キハ決シテ法律テ以テスヘキモノニアラスシテ家庭及學校ノ教育ニ一任スヘキモノナリトノ趣旨ナリ然リ我國ハ古來ヨリ道德敦厚ニシテ法律ノ制裁ノ下ニ發達シタルモノニアラス然レトモ又法律アルカ爲ニ治蹟ヲ擧ケタルコト固ヨリ尠カラス遠ク聖德太子ノ憲法十七箇條ヨリ大寶律令ニ及ヒ德川時代ニ於テハ御定書百箇條ナルモノアリ其ノ他枚擧ニ遑アラス明治維新ニ當リテハ明治三年ノ新律綱領ニ次テ改定律令トナリ明治十三年ニ至リテ佛蘭西法ヲ母法トセル舊刑法典ノ發布ヲ見爾來獨逸法ヲ母法トセル諸種ノ法典續出シ今ヤ法律ノ制定ヲ見ル實ニ多數ナリト謂フヘシ斯カル趨勢ナレハ未成年者ノ飲酒取締ニ付テモ法律ヲ制定シテ之ヲ嚴ニスルハ最必要ナルノミナラス其ノ時ヲ得タルモノト謂フヘシ現ニ外國ニ於テモ此ノ種ノ法律ヲ制定セラレタルモノ決シテ尠カラス又我國ノ實際ニ鑑ミルニ既ニ學校及家庭ニ於テ十分ニ取締ヲ爲スコトヲ得サル以上ハ之カ取締ニ關スル法律ヲ制定シ其ノ弊害ノ甚シカラサルニ當リテ豫防ヲ爲スニ如カス而シテ昨年本案カ本議會ニ於テ否決セラレタルハ或ハ過誤ノ爲ニハアラサルナキカノ感アリ萬一然リトセハ本年ハ固ヨリ其ノ例ヲ繰回スノ要ナカルヘシ

○委員子爵堀河護麿　本員ハ本案ニ反對スル者ナリ其ノ理由ハ大體ニ於テ柳原伯爵ノ意見ト異ルコトナシ故ニ茲ニ辯明スルヲ要セサルモ唯一言附加スヘシ抑此ノ法律案ハ一見直接ニ未成年者ノ飲酒ヲ禁シタルカ如クナルモ決シテ然ラス唯未成年者ニ酒類ヲ供給スル者ヲ罰スルニ過キス故ニ未成年者ノ飲酒取締ニ關シ一部ヲ規定シタルニ外ナラス未成年者ニシテ飲酒ヲ爲サムト欲

セハ種種ノ手段ヲ講シテ酒ヲ求ムヘシ斯ノ如キニ至ラハ十分ノ取締ヲ爲スヲ得サルヤ明ナリ從テ靑年ニ法律ヲ輕スルノ風潮ヲ生スルニ至ルハ柳原伯爵ノ意見ノ如クニシテ特ニ愼ムヘキコトナリ又久保田男爵ノ主張セラルルカ如ク本案ハ昨年否決セラレタルカ故ニ本年モ否決セラレサルヘカラサルノ理由ハ固ヨリナシ本員ノ如キモ相當ノ理由ヲ認ムルニ於テハ之ニ贊成ノ意ヲ表スルニ吝ナラサルナリ然レトモ何等昨年ト異リタル所ナキ今年ニ於テ特ニ思想ヲ變スルノ理由ナカルヘシ要スルニ本案ハ敎育上道德上ノ問題ニ委シテ可ナリ

○委員折田彥市　贊否何レノ說モ結構ナリ又此ノ法律案ノ精神ニハ何人ト雖恐ラクハ異存ナカルヘシ要ハ法律ヲ制定シテ取締ヲ爲サヽルヘカラサルヤ否ニ關シテ意見分ルルノミ蓋法律ナルモノハ輕シク制定スヘキモノニアラス斯ノ如キ事マテモ法律ヲ以テ律スルハ稍牛刀ヲ以テ鷄ヲ割クノ感アルヲ免レス其ノ弊害ノ甚シキニ至ラハ或ハ法律ヲ以テスルノ必要ヲ生セムモ苟クモ然ラサル今日ニ於テハ訓令行政處分其ノ他ノ方法ヲ以テ取締ヲ爲スノ妥當ナルヲ信ス

○委員侯爵花山院親家　本員モ亦本案ニ反對ス其ノ理由ハ最早他ノ委員ノ述ヘタル所ニテ盡キタリ故ニ玆ニ本員ノ言明ヲ要セサルモ唯一言本員ノ杞憂ヲ述ヘムニ若此ノ法律案カ通過シタル曉ハ未成年者ニ酒類ヲ供給スル者ナカルヘシ蓋彼ノ勞働者タル下等社會ニ於テハ十六七歲ニ至ラハ最早一人前ノ仕事ヲ爲スヘキモノナリ而シテ一杯ノ酒ヲ酌交スカ如キハ彼等ノ最慰安トスル所ナリ固ヨリ飮酒カ唯一ノ慰安ニアラサルモ其ノ重ナルモノノ一ナルコトハ事實ナリ然カモ此ノ慰安ヲ全ク彼等ヨリ奪フニ至リテハ或ハ他ニ慰安ノ途ナキニ不平ヲ抱キ遂ニ危險思想ノ萠芽ヲ生スルノ虞ナキカ是レ大ニ考思スヘキコトニアラスヤ

○委員長伯爵德川達孝　本案ニ對シテ他ニ意見ヲ述フル者ナキヤヲ諮ヒ之ナキヲ認メタルヲ以テ本案ヲ表決ニ付ス

否　決

○委員長伯爵德川達孝　散會ヲ命ス

散會　午前十一時四十八分

（附記）同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

未成年者飮酒取締ニ關スル法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月六日

右特別委員長

伯爵　徳川達孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長　伯爵　徳川達孝印

副委員長　伯爵　柳原義光印

群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案特別委員會

委員選擧

○明治四十五年三月七日議長ノ指名ヲ以テ群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

子爵　土御門晴榮

子爵　藤谷爲寛

子爵　本莊宗義

男爵　野村素介

男爵　北島齊孝

男爵　徳川厚

男爵　千秋季隆

男爵　眞田幸世

佐藤友右衛門

委員長及副委員長選擧

○明治四十五年三月九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 男爵 眞田幸世
副委員長 子爵 土御門晴榮

會議

第一回 明治四十五年三月九日

出席委員

委員長 男爵 眞田幸世　副委員長 子爵 土御門晴榮
委員 子爵 藤谷爲寛　同 子爵 本莊宗義
同 男爵 北島齊孝　同 男爵 德川厚
同 男爵 千秋季隆　同 佐藤友右衞門

出席政府委員

内務省神社局長 井上友一

開會 午後一時十七分

○委員長男爵眞田幸世 開會ヲ宣告ス

（參照）

群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案

群馬縣上野國山田郡毛里田村、韮川村、矢場川村、休泊村ヲ同縣同國新田郡ニ編入ス

附則

本法ハ明治四十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○委員男爵北島齊孝 政府委員ヨリ本案ノ趣旨ヲ説明セラレムコトヲ求ム

○政府委員井上友一 本案ノ内容ハ年年請願トシテ呈出セラレ又法律案トシテ衆議院ニ發議セラレタルモノニシテ衆議院ニ於テハ其ノ都度可決セラレタルニモ拘ラス本案ニ對シテハ當該地方長官ハ尚考慮ヲ要スルモノナリトノ意見ヲ有シ内務省ニ於テモ亦十分ナル調査研究ヲ遂ケタル上ニアラサレハ同意ヲ表スル能ハサルナリ本案ノ發議者ハ山田郡毛里田村、韮川村、矢場川村、休泊村ノ四箇村ハ新田郡ト用水其ノ他ニ付密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ新田郡ニ編入セラルルヲ便ナリト爲スト雖山田郡ハ二箇町十箇村ヲ包含スル小郡ニシテ其内四箇村ヲ割カルルニ至ラハ人口戸數直接國税ノ額ニ於テ其ノ三分ノ一ヲ減シ殘餘ノ町村ニテハ郡費ノ負擔ニ堪ヘサルヘシ尤モ四五箇村ヲ以テ一郡ヲ組織スルモノナキニアラサレトモ本案ノ目的トスルカ如ク在來ノ

郡ヲ縮少スルハ大ニ考慮ヲ費サヽルヘカラス現ニ山田郡ハ郡立高等女學校ヲ有シ之カ經費八千圓ヲ要シ郡費總額九千七百圓ヲ支出ス斯ノ如キハ郡費トシテハ敢テ多額ノ支出ニアラスト雖殘餘ノ町村ニ於テ之ヲ負擔スルニ至ラハ亦決シテ輕キニハアラサルヘシ若夫レ郡内ニ於テ最殷盛ナル機業地ニシテ人口三萬二千ヲ有スル桐生町ニ市制ヲ施行セラルルニ至ラハ山田郡ハ益小郡ト爲リ其ノ獨立ヲ危クセラルルナラム果シテ然ラハ此ノ如キ場合ニハ宜シク郡ノ合併ヲ行フヘシト說ク者アルモ郡ノ併合ハ容易ニ行ヒ得ヘキニアラス而シテ地方長官ハ責任ヲ以テ之ヲ決行スルノ勇氣ナク又内務省ニ於テモ甚躊躇セサルヲ得サル所ナリ

○委員子爵土御門晴榮　山田郡竝毛里田村外三箇村ノ人口直接國稅ノ額ハ幾何ナルカ

○政府委員井上友一　山田郡ハ人口八萬二千ヲ有シ直接國稅十五萬圓ヲ負擔ス然ルニ毛里田村外三箇村ハ人口一萬九千ヲ有シ直接國稅五萬圓ヲ負擔ス故ニ郡域變更セラルルニ至ラハ山田郡ハ人口及直接國稅ニ於テ各約其ノ三分ノ一ヲ減殺セラルヘシ

○委員子爵土御門晴榮　毛里田村外三箇村ノ人民ノ希望如何

○政府委員井上友一　此等四箇村ノ住民ハ新田郡ト用水等ノ關係モアレハ郡域ノ變更ヲ希望ス要スルニ毛里田村外三箇村ヲ本位トシテ見レハ之カ爲ニ便益ヲ受クルコト少カラサラム

○委員男爵北島齊孝　昨年ノ委員會會議錄ニ依レハ政府委員ハ毛里田村外三箇村ノ人口ヲ二萬有餘ナリト說明セルカ如シ前述ノ數ト異動アルハ如何

○政府委員井上友一　正確ナル人口數ハ一萬九千人ナリ併ナカラ昨年ノ委員會ニ於テハ約二萬ト略言セシナラムカ

○委員男爵千秋季隆　政府委員ノ說明ニ依レハ政府ハ本案ニ反對ノ意思ヲ有スルカ如シ其ノ最重ナル理由トスル所如何

○政府委員井上友一　政府カ本案ニ反對スル主タル理由ハ本案カ法律トシテ施行セラルルニ至ラハ山田郡ハ其ノ資力ノ三分ノ一ヲ減殺セラレ爲ニ郡事業ノ經營ヲ困難ナラシムルノ點ニ在リ現ニ同郡ハ郡費年額九千圓ヲ支出シ内八千圓ヲ以テ郡立高等女學校ヲ經營ス然ルニ若此ノ四箇村ヲ失フニ至ラハ殘餘ノ町村ハ此等郡事業ノ經營ヲ繼續スルヲ得ルヤ否ヤ懸念ニ堪ヘス

○委員男爵千秋季隆　假ニ桐生町ニ市制ヲ施行セラルルコトナシトスルモ尙政府ハ本案ニ反對スルヤ

○政府委員井上友一　郡域變更ノ結果山田郡ハ其ノ資力ノ三分ノ一ヲ減殺セラル政府ハ此ノ點ニ於テ本案ニ反對ス然ルニ若桐生町ニ市制ヲ施行セラルルトセハ更ニ反對ノ程度ヲ强カラシムル

モノナリ

○委員男爵北島齊孝　本案カ年年衆議院ヨリ提出セラルルハ裏面ニ於テ何等カノ理由存スルニアラサルカ

○政府委員井上友一　裏面ノ事情迄ハ深ク探索セサレトモ先ツ想像シ得ルハ選擧ノ關係ナラムカ併ナカラ現行ノ制度ハ大選擧區制ナルカ故ニ此ノ點ニ付テハ利害ヲ感スルコトナカラム故ニ郡域變更ノ理由ニシテ最主タル所ハ水利ノ關係ト土地ノ近接トニ在ルヘシ

○委員子爵土御門晴榮　毛里田村外三箇村ヨリ桐生、太田兩町ヘノ距離幾何ナルカ

○政府委員井上友一　毛里田村外三箇村ヨリ桐生町ニ至ル距離ハ太田町ニ至ルモノニ比シテ遠隔ナリ

○委員男爵北島齊孝　近キ將來ニ於テ桐生町ニ市制ヲ施行セラルヘシトハ地方長官ノ意見ナリヤ將又內務省ノ意見ナリヤ

○政府委員井上友一　桐生町ハ繁盛ナル機業地ニシテ人口三萬二千ヲ有ス人口三萬以下ニテモ市制ヲ施キタル例アルヲ以テ地方長官カ事由ヲ具シテ市制施行ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ之ヲ許可セサルヲ得ス地方長官ハ桐生町ニ市制ヲ施行セラルヘキ時期ニ付テハ言明セサリシモ其ノ時期到來スヘシトノ理由ヲ以テ郡域ノ變更ニ反對ノ意見ヲ內務省ニ申達シ來リタリ

○委員子爵本莊宗義　毛里田村外三箇村ノ位置人情風俗ヨリ考察スレハ寧之ヲ新田郡ニ編入スルヲ可トスルニアラスヤ

○政府委員井上友一　毛里田村外三箇村ヲ本位トシテ考察スレハ然ルカ如シ併ナカラ縣ニ於テハ又殘餘ノ町村ノ利害ニ付テモ考慮セサルヘカラス況ヤ將來桐生町ニ市制ヲ施カルルコトナキニシモアラサルニ於テヲヤ而シテ衆議院ニ呈出セラレタル區域變更ノ請願書ハ一部人民ノ呈出シタルモノニシテ村會ノ議決ヲ經タルモノニアラス

○委員子爵本莊宗義　衆議院ニ呈出セラレタル請願ハ村會ノ議決ヲ經タルモノトアリ如何

○政府委員井上友一　唯今調査シタル所ニ據レハ貴說ノ如シ昨年呈出ノ請願書ハ一部人民ノ呈出ニ係ルモノナリシカ本年ノ請願書ハ村會ノ議決ヲ經タルモノナリ

○委員男爵德川厚　山田、新田ノ兩郡ヲ合併スレハ如何

○政府委員井上友一　本案ノ如ク決行セハ結局山田、新田ノ兩郡ヲ合併セサルヲ得サルニ至ルヘシ然レトモ郡制ノ施行セラレテヨリ歲月ヲ經ルニ從ヒ郡自治團體ハ鞏固ト爲リ其ノ間ニ舊慣郡事業ノ存スルニ由リテ郡ノ分合ハ容易ニ行フヘカラス今假令山田、新田兩郡ノ合併ヲ斷行スル

モ郡役所其ノ他官衙ノ位置ニ付テハ桐生、太田兩町間ニ一紛議ノ生スルヲ免レサルヘシ故ニ現今ニ於テハ地方長官モ內務省モ共ニ之ヲ決行スルノ勇氣ヲ有セス

○委員男爵千秋季隆　本案ハ數囘衆議院ヨリ提出セラレタルニ拘ラス山田郡ノ他ノ町村ハ何等意見ヲ發表シタルコトナキヲ以テ見レハ毛里田村外三箇村ト同郡タルヲ欲セスシテ分離ヲ希望スルニアラサルカ

○政府委員井上友一　其ノ點ニ付テハ調査シタル所ナキモ或ハ此等ノ町村ヨリ郡長又ハ知事ニ向テ意見ヲ陳述シタルヤモ知レス兎ニ角郡長竝知事ハ本案ニ不同意ナリ

○委員子爵本莊宗義　此等ノ町村ニシテ郡長又ハ知事ニ向ヒ毛里田村外三箇村ト同郡タルヲ欲セサルノ書面ヲ提出シタリシナラハ政府ハ本案ニ對スル意見ヲ變更セラルルヤ

○政府委員井上友一　政府ハ斯カル書面ノ有無ニ拘ラス地方長官ノ意見ニ重キヲ置クモノナリ

○委員子爵本莊宗義　毛里田村外三箇村ヨリ本件ニ關シ郡長ニ意見書ヲ差出シタルコトナキヤ

○政府委員井上友一　郡長ヘ意見書ヲ提出シタリ

○委員男爵千秋季隆　郡界變更ハ一般ニ如何ナル方針ノ下ニ行ハルルカ

○政府委員井上友一　少シク事例ヲ異ニスルモ曾テ埼玉縣下ニ於テ千住町附近ノ住民カ東京府ヘ

編入セラルルヲ希望シテ內務省ヘ請願ヲ爲セリ之ニ對シテハ東京府ハ同意ナリシモ埼玉縣ハ不同意ヲ表シタリ而シテ內務省ハ兩府縣知事ノ意見一致セサリシヲ以テ之ヲ採用セサリキ郡界變更ノ場合ニ於テモ同樣ノ方針ヲ採ルモノナリ

○委員男爵北島齊孝　栃木縣足尾町ハ群馬縣ニ編入セラルルヲ希望スト聞ク果シテ眞ナルカ

○政府委員井上友一　之ハ公然發表スヘキ事ニアラサルモ群馬縣知事ノ內意見ニ依レハ鐵道敷設セラレ且足利郡ノ管轄ノ下ニ立チテ差支ナキヲ得ルニ至ラハ群馬縣ニ編入スルヲ可ナリトスルカ如シ併シ栃木縣知事カ之ニ同意スルヤ否ヤ明ナラス此ノ件ニ關シテハ內務省ハ未何等調査シタルコトナシ

○委員男爵北島齊孝　足尾町ノ意見ハ如何

○政府委員井上友一　前述セル所ハ群馬縣知事ノ意見ニシテ足尾町ノ意見ニアラス

○委員子爵本莊宗義　毛里田村外三箇村ト山田郡ノ他ノ町村トハ實際ニ於テ風俗人情等ヲ異ニスルヤ

○政府委員井上友一　毛里田村外三箇村ハ水利、商取引等ニ於テ新田郡太田町ト密接ノ關係ヲ有シ從テ風俗人情等ハ寧同町ト相近キモノアラム

○委員長男爵眞田幸世　質問既ニ盡キタルカ如シ本案ヲ表決ニ付シ異議ナキヤヲ諮フ

異議ナシ

○委員長男爵眞田幸世　本案ヲ表決ニ付ス

否決

○委員長男爵眞田幸世　散會ヲ命ス

散會　午後一時五十四分

（附記）同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月九日

右特別委員長

男爵　眞田幸世

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長　男爵　眞田幸世印

副委員長　子爵　土御門晴榮印

水先法中改正法律案特別委員會

委員選擧

○明治四十五年三月七日議長ノ指名ヲ以テ水先法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵 吉井幸藏
子爵 本多忠鋒
男爵 赤松則良
男爵 黑岡帶刀
男爵 宮原二郎
男爵 中溝德太郎
男爵 安場末喜
男爵 楠本正敏
尼崎伊三郎

委員長及副委員長選擧

○明治四十五年三月九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 伯爵 吉井幸藏
副委員長 子爵 本多忠鋒

會議

第一回 明治四十五年三月九日

出席委員

委員長 伯爵 吉井幸藏　副委員長子爵 本多忠鋒
委員 男爵 赤松則良　同 男爵 黑岡帶刀
同 男爵 宮原二郎　同 男爵 中溝德太郎
同 男爵 安場末喜　同 男爵 楠本正敏
同 尼崎伊三郎

出席政府委員

遞信次官 小松謙次郎
遞信省管船局長 湯河元臣

開會 午後一時二十五分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

（參照）

水先法中改正法律案

水先法中左ノ通改正ス

第三條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 滿二十五年ニ達セサル者

○委員男爵安場末喜 現行ノ水先法ニ依レハ滿二十三歳ニ達セサル者及滿六十歳以上ノ者ハ水先人タルコトヲ得ス然ルニ船長タルニ斯ノ如キ年齡ノ制限ナシ其ノ理由如何

○政府委員湯河元臣 船長タルニ年齡ノ制限ナキハ船長ト水先人ト其ノ性質ヲ異ニスルニ因ル加之船長ヲ雇入ルル場合ニハ技能アル者ヲ選擇スルニ十分ノ餘裕アリトス然ルニ水先人ハ需要ニ應スルタケノ人員ヲ免許セルノミニシテ又之ヲ雇入ルルハ咄嗟ノ場合ニシテ勿論水先人ヲ選擇スルノ餘裕アルヘキノ理ナシ故ニ水先人ハ極メテ優秀ノ者ノミニ之ヲ許可シ置クノ必要アリ是レ年齡ノ制限ヲ設ケタル所以ナリ

○委員男爵楠本正敏 水先人ヲ雇入ルルニハ必其ノ順番ニ依ラサルヘカラサルカ例ヘハ甲某ヲ指

定シテ雇入ルルコトヲ得サルカ

○政府委員湯河元臣　水先人ノ順番ニ從テ雇入ルルヲ常トス然レトモ是非甲某ヲ雇入レタシト謂フ場合ニ於テハ事前ニ其ノ旨ヲ通知シ置カサルヘカラス

○委員黑岡帶刀　本案ノ改正ハ外國ノ會社ヨリ請願シタルニ基クモノナリト聞ク然ラハ其等外國會社ノ所屬國ニ於テハ日本人カ水先人ヲ志願スル場合ニ之ニ免許ヲ與フルヤ否ヤ外國ニ於テハ漁業ニ從事スル日本人スラ之ヲ排斥スト聞ク外國ニ於テ日本人ニ對スル水先人免許ノ取扱如何

○政府委員湯河元臣　外國ニ於テハ一般ニ自國人ノミニ水先人タルコトヲ許可シ決シテ他國人ニ之ヲ許可セス是レ自國ノ海岸ヲ他國人ニ依リテ調査セラレ知悉セラルルハ國防上厭フヘキコトナルカ故ナリトス唯例外トシテ支那ニ於テハ他國人ノ水先人ヲ許可ス

○委員男爵中溝德太郎　政府ハ本案ニ不同意ナリト聞クモ其ノ意見ヲ定ムルニ方リテハ海軍省トモ協議セシヤ

○政府委員湯河元臣　海軍省ノ意見ヲ聞キシハ勿論ナリトス

○委員長伯爵吉井幸藏　筆記ノ中止ヲ命ス

（筆記中止）

○委員長伯爵吉井幸藏　筆記ノ開始ヲ命ス

○委員男爵安場末喜　水先法及水先人試驗規程ヲ見ルニ水先人タルニハ年齡二十三歳以上ニシテ又五百噸以上ノ航洋船ニ船長タリシコトアル者タルヲ要件トス而シテ商船學校等ヲ卒業シテ直ニ船長トナルハ出來サルコトナレハ二十三歳位ニテハ以上ノ資格ヲ有スル能ハサルモノト思惟ス水先人タル者ノ最少年齡ヲ二十三歳ト規定シタル所以如何

○政府委員湯河元臣　二十三歳ハ水先人ノ最少年齡ヲ定メタルモノナルモ該年齡ヲ以テ水先人ト爲レル者ハ絕無ナリ併ナカラ二十歳ノ年齡ニテ地方ノ商船學校ヲ卒業シ最短期間ヲ經テ累進スル者アリト假定スレハ卒業後三年ニシテ水先人ト爲ルノ資格ヲ得ヘシ故ニ二十三歳ヲ最少年齡トシテ規定シタルナリ而シテ現在ノ水先人ノ平均年齡ハ四十五歳ナリ

○委員黑岡帶刀　水先人試驗ニ及第スルモ其ノ水先區ノ變化ニ付テハ常ニ注意ヲ怠ルヘカラス然ルニ要塞地帶ニ於テハ軍機保護法ニ依リテ自由ニ之ヲ調査スルハ困難ナリ殊ニ外國人ノ水先人ニハ此ノ困難甚シキモノト信ス水先人ハ常ニ能ク水先區内ノ調査ヲ怠ラサルカ

○政府委員湯河元臣　水先人ハ水路圖ニ依リテ水先區ヲ取調ヘ又絕エス同一水先區ヲ往復スルカ

故ニ大ナル經驗ヲ有スルモノナリ水先人カ他ニ如何ナル方法ニ依リテ調査スルカニ至リテハ本員ハ未之ヲ知ラス

○委員黑岡帶刀　例ヲ擧ケテ質問セムニ馬關海峽ノ整理等ニ因テ生スル潮流其ノ他ノ變化ニ付テハ外國人タル水先人ニシテ之ヲ調査スル者ナキカ

○政府委員湯河元臣　要塞地帶內ニ於テ調査スルハ殊ニ外國人ニ困難ナルコトハ明ナリ斯カル理由ニ因リテ水路潮流ノ變化ヲ調査スルコトハ內國人ニ多キハ勿論ナリト信ス

○委員男爵中溝德太郎　衆議院ニ於ケル政府委員ノ辯明ニ依ルニ水先人ハ船長ト異リ晝夜雨露ニ曝サルルヲ以テ心身强壯ナラサルヘカラス故ニ其ノ年齡ヲ六十歲未滿ニ限レルカ如シ此ノ點ニ付テハ航路ノ安全ヲ期スル爲政府ハ現行法ヲ固守スル精神ナルカ

○政府委員湯河元臣　然リ雇入ニ際シ船長ニハ選擇ノ餘裕アルモ水先人ハ咄嗟ニ雇入ルルモノナルカ故ニ之カ選擇ニ餘裕ナキハ前述ノ如シ殊ニ水先人カ如何ナル暴風雨ノ際ニモ盡ササルヘカラサルノ責任ニ至リテハ甚重大ナリト謂ハサルヘカラス故ニ心身極メテ强健ナル者ナラサルヘカラサルナリ

○委員黑岡帶刀　英國ノ水先人ハ一等二等三等ニ區別シ其ノ等級ニ從ヒテ水先人ノ業務ニ從事スルコトヲ得ル船舶ノ噸數ニ限アリ例ヘハ三等水先人ハ何千噸以上ノ船舶ニハ水先人タルノ權利ナシト謂フカ如シ日本ニ於テハ斯カル規定ヲ參考シタルカ

○政府委員湯河元臣　現行法ヲ制定スルニ方リテ諸外國ノ水先法ヲ調査シタリ而シテ十分ニ經驗アル優秀ノ人物カ續續トシテ水先試驗ニ應スルノ有樣ナリ故ニ日本人タル水先人ノ有力者ヲ見ルニ至レリ

○委員男爵赤松則良　政府ハ水先區域ヲ延長シ又ハ之ヲ新設スルノ考ナキカ

○政府委員湯河元臣　現今ニ於テハ水先區域ノ新設延長ノ必要ヲ認メス

○委員男爵安場末喜　水先區域內ニ於テモ水路ノ要所自ラ存スルナルヘシ故ニ水先人ノ業務ト雖長時間間斷ナキ劇務ニモアラサルヘシ六十歲以上ノ者ハ果シテ其ノ職ニ堪ヘサルカ

○政府委員湯河元臣　水先區域內ノ危險ハ殆絕ユルコトナシ故ニ水先人ハ心身ノ强壯ト熟練トヲ要ス

○委員男爵中溝德太郎　六十歲ヲ水先人年齡ノ最高限トシタルハ如何ナル標準ニ依リテ案出シタルカ

○政府委員湯河元臣　日本民法ニ依ルモ六十歲ニ達スレハ隱居ヲ許可ス六十歲ハ日本人ニハ先ツ

老境ト稱スヘキナリ年齡ニ制限ナキ船長ニ於テ見ルモ六十歲以上ノ者ハ極メテ少數ナリ船長ノ職務ニ比シテ極メテ强壯ノ身體ヲ要スル水先人ニ對シ年齡ノ最高限ヲ六十歲トシタルハ正當ト認ム

○委員男爵赤松則良　人ノ健康ハ時ニ隨テ變化スルモノトス然ルニ一旦水先人ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ六十歲ニ達スル迄身體ノ檢査ヲ行ハサルカ

○政府委員湯河元臣　水先人ニシテ身體虛弱ニ陷リ其ノ業務ヲ行フニ適セサルニ至ラハ調査ノ上水先人免狀ヲ返還セシムルモノトス

○委員黑岡帶刀　水先人ノ數ニハ限アルカ

○政府委員湯河元臣　然リ水先區域ニ於テ必要ナル員數以上ニ之ヲ許可セス

○委員黑岡帶刀　英國ニ於テハ水先人ハ一年限ノ免許ヲ受ク日本ニ於テモ亦斯クスル必要ヲ認メサルカ

○政府委員湯河元臣　若六十歲以上ニシテ水先人タルコトヲ許可スルニ於テハ或ハ每年試驗ヲ行フノ必要アラム現時ニ於テハ斯カル必要ヲ認メス

○委員黑岡帶刀　重ネテ問フ水先人ニ年齡ノ制限ヲ設ケタル理由如何

○政府委員湯河元臣　一ハ水先人ノ心身ノ强壯ヲ期シ一ハ新進ノ人物ヲ擧ケテ新陳代謝セシムルノ必要ヲ認ムルニ由ル

○委員黑岡帶刀　一片ノ水先人免狀ヲ有スル者ヲシテ船舶ノ大小新舊ヲ論セス之カ水先人タルヲ得シムルハ危險ニアラサルカ

○政府委員湯河元臣　航海ノ術ハ實ニ日進月歩ノ有樣ナリ水先試驗ニ於テモ學術ノ進歩ニ伴フ試驗ヲ行フモノナリ而シテ特ニ此ノ點ニ付テハ注意ヲ怠ラス

○委員長伯爵吉井幸藏　散會ヲ命ス

散會　午後三時二分

第二回　明治四十五年三月十二日

出席委員

委員長　伯爵　吉井幸藏　副委員長子爵　本多忠鋒

委員　男爵　赤松則良　同　黑岡帶刀

同　男爵　宮原二郎　同　男爵　中溝德太郎

同　男爵　安場末喜　同　男爵　楠本正敏

同　尼崎伊三郎

出席政府委員

海軍次官　財部彪

遞信省管船局長　湯河元臣

開會　午後一時二十五分

○委員長伯爵吉井幸藏　開會ヲ宣告ス

○委員黒岡帶刀　各水先區ニ於ケル水先人ノ内外國人ノ比如何

○政府委員湯河元臣　其ノ二三ヲ例示スレハ東京灣ニハ外國人一名内國人三名、瀬戸内海ニハ外國人七名内國人十六名、長崎ニハ外國人ナク内國人二名、下關ニハ外國人ナク内國人六名アリ

○委員黒岡帶刀　水先人ノ年長者ハ何レノ水先區ニ多キヤ

○政府委員湯河元臣　概シテ瀬戸内海ニ多シ

○委員男爵中溝徳太郎　水先人ノ監督其ノ他ノ事務ハ港務部ニ於テ之ヲ爲スカ

○政府委員湯河元臣　水先人ノ監督ハ主トシテ遞信省海事部之ヲ行フ届書願書報告書ノ如キモ一應海事部ヲ經由シテ主務省ニ達スルヲ常トス

○委員黒岡帶刀　外國人ヨリ水先人ノ業務ニ關シテ請願シタルコトアリヤ

○政府委員湯河元臣　明治三十二年ニ水先法ヲ施行セラレシ時ニハ水先人ハ日本人五名外國人十八名ナリキ然ルニ現今ニ於テハ之ト全ク反對ノ現象ヲ呈スルノ有樣ト爲レルカ故ニ水先人ノ年齡ノ制限ヲ延長セラレタキ旨ヲ請願シタル外國人九名アリ

○委員長伯爵吉井幸藏　筆記ノ中止ヲ命ス

（筆記中止）

○委員長伯爵吉井幸藏　散會ヲ命ス

散會　午後二時十五分

第三回　明治四十五年三月十八日

出席委員

委員長　伯爵　吉井幸藏　　副委員長子爵　本多忠鋒

委員　男爵　赤松則良　　同　黒岡帶刀

同　男爵　宮原二郎　　同　男爵　中溝徳太郎

同　男爵　安場末喜　　同　男爵　楠本正敏

同　　尼崎伊三郎

出席政府委員

遞信省管船局長　湯河元臣

開會　午前十一時二十分

○委員長伯爵吉井幸藏　開會ヲ宣告ス

○委員伯爵吉井幸藏　水先人ニハ定員アリヤ

○政府委員湯河元臣　水先人ニハ定員ナシ現在ノ水先人ニテハ水先ノ要求ニ應スルコト能ハサル場合ニ於テ試驗ヲ以テ所要ノ數ヲ採用スルモノトス

○委員男爵宮原二郎　現在外國人タル水先人ハ八名ナリヤ

○政府委員湯河元臣　然リ

○委員男爵楠本正敏　水先區ニ於ケル一箇月ノ水先件數幾何ナルカ

○政府委員湯河元臣　茲ニ精細ナル調査書類ナシ

○委員子爵本多忠鋒　水先區ノ名稱ヲ示サレタシ

○政府委員湯河元臣　東京灣、和泉灘、内海、下關、長崎港、島原海灣、函館港ノ各水先區アリ

○委員尼崎伊三郎　水先人ヲ指定シタル場合ニ其ノ指定ヲ受クル水先人在ラサルトキハ如何ニスルカ

○政府委員湯河元臣　指定水先人在ラサルトキハ頭順位ノ水先人之ニ當ルヘシ全然水先人在ラサルカ如キ不都合ハナカラムト思考ス

○委員長伯爵吉井幸藏　本案ニ對シ質問盡キタリト認ムルカ故ニ討議ニ移ルヘキ旨ヲ宣告ス

○委員男爵中溝德太郎　本員ハ現行法ヲ以テ最適當ナリト信ス抑本案提出ノ主旨トスル所ハ水先法第三條第一號ヲ改メムトスルモノニシテ其ノ理由ハ第一水先人ハ六十歳以上ニ達スルモ健全ノ者多ク又熟練ト經驗トヲ重ネタルモノアリ第二船長ニハ年齡ノ制限ナクシテ水先人ニノミ此ノ制限ヲ付セラルル理由ナシトノ二點ニ歸スルモノノ如シ本案ノ二十三歳ニシテ水先人トナルヲ不可トスルハ斯カル年齡ノ者ハ經驗ニ乏シキニ由ルト認メタルカ如シ然ルニ水先人ノ職務ハ航路船舶ノ安全ヲ計ルニ在リテ一般ノ船長ト比シテ勞務ノ繁劇ナル同日ノ論ニアラス而カモ船長ニハ數人ノ保佐役アリテ相當ノ任務ヲ分擔セシムルモ水先人ニ於テハ即然ラス而シテ船舶ハ其ノ構造ト噸數トニ於テ日進月歩ノ狀ヲ呈シ水先人ノ業務ハ爲ニ大ニ複雜トナリ隨テ又心身健全ニシテ此等ノ進歩ニ應スルヲ得ルノ適任者ニ俟タサルヘカラス而シテ日本人ニ付テハ六十歳

ニ達セルヲ以テ老境ニ入レルモノトシ此ノ制限ヲ置カレシハ適當ト認メサルヲ得ス又現行法ノ二十三歳ヲ二十五歳ニ改ムルハ僅ニ二年ヲ延長スルモノニシテ事實上何等ノ效果アルヲ認ムルヲ得ス故ニ上述ノ如ク重大ナル理由ナクシテ濫ニ現行法ヲ改廢スルハ立法ノ威信ヲ損シ又之ニ伴フ所ノ弊害モ少シトセス依テ本員ハ本案ニ反對ノ意ヲ表スル者ナリ

○委員男爵赤松則良　本員モ亦本案ニハ反對ナリ現行法ノ二十三歳ヲ二十五歳ニ改ムルノ點ニ付テハ何レニスルモ大差ナシ而シテ人六十歳以上ニ達シタルトキハ體力視力聽力既ニ自ラ減退スルヲ常トス故ニ六十歳ヲ以テ水先人ノ年齡ヲ制限スルハ適當ナリト信ス然レトモ二十三歳ヨリ六十歳ニ至ル間ト雖人ノ身體ハ一定不變ノモノニアラス又水路潮流モ時ニ變化スルヲ保シ難シ故ニ時時水先人ヲ試驗スルコトハ最必要ナリト信ス若此ノ試驗ヲ施行スルニ至ラハ六十歳以上ニ達スル者ト雖水先人ト爲スニ何ノ不可カアラム依テ本員ハ水先人ノ免許ノ效力ヲ三年ニ制限シ更ニ試驗ヲ行ヒテ更新セシムルヲ可ナリト信ス故ニ寧此ノ趣旨ニ依リテ本案ヲ修正セムト欲ス

○委員男爵安場末喜　本員ハ本案ニ反對スルト共ニ赤松男爵ノ意見ニ贊成スルモノナリ水先人ノ責任ノ重大ニシテ體力視力聽力ノ健全ヲ要スルヤ茲ニ重子テ贅スルノ要ナシ而シテ年齡ニ依リテ制限セムヨリハ寧事實ニ就キテ資格アリヤ否ヲ試驗スルハ最適切ニシテ確實ナル手段ト信ス

○政府委員湯河元臣　參考トシテ一言セムト欲ス心身衰弱其ノ他ノ原因ニ依リテ水先人タル資格ナキニ至ラハ行政上ノ作用ヲ以テ之ヲ除去スルコトヲ得ルハ法文ノ示ス所ニ依リテ明ナリ且從來斯カル規定ヲ適用シタルコトナキハ試驗ノ甚愼重嚴格ニシテ最當ヲ得タルコトヲ示スモノナリ又個人トシテハ六十歳以上ニシテ矍鑠タル者アレトモ法律ノ見ル所ハ一個特殊ノ人ヲ示スニアラスシテ一般ニ概括的ナラサルヘカラス故ニ此ノ點ニ付テハ現行法ノ規定ニテ足レリト信ス

○委員男爵安場末喜　政府委員ノ說明ニ依リ益試驗制度ノ必要ヲ感ス一般ニ概括的ニ論スレハ二十三歳ヨリ六十歳迄ノ長年月ニ於テ人體ニ異狀變態ヲ來スコトハ蓋否定スルヲ得サルヲ以テナリ

○委員男爵中溝德太郎　現行法ニ依ルモ事實上水先人ノ業務ヲ執ル能ハサル者ハ之ヲ取締ルノ方法アリトスレハ政府ニ一層ノ監督ヲ希望シテ本案ヲ否決シテ可ナリト信ス

○委員子爵本多忠鋒　本員ハ中溝男爵ノ意見ニ贊成ス

○委員黑岡帶刀　本員ハ本案ニ贊成スルコトヲ得ス現行法ヲ是ナリト爲ス者ナリ概括的ニ六十歳

以上ヲ老境ト爲スノ可ナルハ疑フノ餘地ヲ存セス又最少年齡二十三歳ヲ二十五歳ニ變更スルモ何等改正ノ目的ヲ達スル所以ニアラス水先人ノ資格實力ニ關スル監督ハ行政上ノ取締ニ一任シテ可ナリト信ス

○委員男爵宮原二郎　本員モ本案ニ反對ナリ是レ其ノ現行法ニ比シテ優レルニアラサルヲ以テナリ然レトモ現行法モ亦決シテ完全ナリトスヘカラス赤松男爵ノ修正意見ハ或點ニ於テ贊成ナルモ又現行法ニモ非常ナル闕點アルヲ認メス而シテ法律ノ改正ハ十分ノ注意ヲ要スルモノナルカ故ニ本案ヲ否決シテ尙調査研究ヲ積ミ適當ノ改正案ヲ起草セラレムコトヲ政府ニ希望シ置クモノナリ

○委員男爵赤松則良　本員ハ先ニ述ヘタル修正意見ヲ取消シ其ノ改正ヲ要スル點ニ付テハ政府當局者ニ於テ十分ナル注意ヲ望ム

○委員男爵安場末喜　本員ハ赤松男爵ノ希望ニ同意ヲ表ス

○委員長伯爵吉井幸藏　本案ヲ表決ニ付ス

否決

○委員長伯爵吉井幸藏　散會ヲ命ス

散會　午後零時四十分

（附記）同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

水先法中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月十八日

右特別委員長
伯爵　吉井幸藏

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長　伯爵　吉井幸藏印
副委員長　子爵　本多忠鋒印

衆議院議員選擧法中改正法律案特別委員會

委員選擧

○明治四十五年三月九日議長ノ指名ヲ以テ衆議院議員選擧法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

公爵　二條基弘
侯爵　德川賴倫
伯爵　川村鐵太郎
子爵　三島彌太郎
子爵　松平直平
子爵　松平親信
子爵　水野直
　　　淺田德則
男爵　有地品之允
　　　村田保

男爵 久保田讓
江木千之
石渡敏一
高木豐三
有松英義
鎌田榮吉
濱口吉右衛門
桑田熊藏

委員長及副委員長選擧

○明治四十五年三月十一日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 子爵 三島彌太郎
副委員長 男爵 有地品之允

會議

第一回 明治四十五年三月十一日

出席委員

副委員長男爵 有地品之允 委員 公爵 二條基弘
同 侯爵 德川賴倫 同 伯爵 川村鐵太郎
同 子爵 松平直平 同 子爵 松平親信
同 子爵 水野直 同 淺田德則
同 村田保 同 男爵 久保田讓
同 江木千之 同 石渡敏一
同 高木豐三 同 有松英義
同 鎌田榮吉 同 濱口吉右衛門
同 桑田熊藏

出席委員外議員

伯爵 柳澤保惠

出席國務大臣

內務大臣 原敬

出席政府委員

内務省土木局長兼内務省地方局長　水野錬太郎

司法省刑事局長　小山温

開會　午前十時三十分

○副委員長男爵有地品之允　開會ヲ宣告ス

（參照）

衆議院議員選擧法中改正法律案

衆議院議員選擧法中左ノ通改正ス

第一章　議員ノ定數及選擧ニ關スル區域

第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

衆議院議員ハ四百五十八人以内トシ各選擧區ニ於テ之ヲ選擧ス

第五條　削除

第六條　郡市長ハ選擧長トナリ選擧ニ關スル事務ヲ擔任ス

一選擧區ニシテ數郡市ニ渉ルトキハ地方長官ハ關係郡市長ノ一人ヲシテ選擧長タラシムヘシ

第十一條中左ノ如ク改ム

三　無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者及舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者但シ復權ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

四　禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第四十二條　投票管理者ハ一名又ハ數名ノ投票立會人ト共ニ投票ノ翌日迄ニ投票函、投票錄及選擧人名簿ヲ選擧長ニ送致スヘシ

第四十四條中「選擧長」ヲ「地方長官」ニ改ム

第六章　選擧會

第五十一條　選擧會ハ選擧長ノ屬スル郡市役所又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ選擧長ノ指定シタル場所ニ之ヲ開ク

第五十二條　選擧長ハ選擧會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第五十三條　選擧長ハ投票立會人中ヨリ三名以上七名以下ノ選擧立會人ヲ選任シ選擧會ニ立會ハシムヘシ但シ一選擧區タル市ニ於テハ投票立會人ヲ以テ選擧立會人トス

選擧立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第五十四條　選擧長ハ一選擧區タル市ニ於テハ投票ノ翌日其ノ他ノ郡市ニ於テハ投票函ノ總テ到達シタル翌日選擧立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

第五十五條第一項第五十七條及第五十九條中「開票管理者」ヲ「選擧長」ニ、「開票立會人」ヲ「選擧立會人」ニ改ム

第五十五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

選擧長ハ選擧立會人ト共ニ各投票所ノ投票ヲ點檢スヘシ

第五十六條　選擧人ハ其ノ選擧會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第六十條　選擧長ハ選擧錄ヲ作リ選擧會ニ關スル顚末ヲ記載シ選擧立會人ト共ニ署名シ投票錄ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第六十一條　削除

第六十二條中「開票」ヲ「選擧會」ニ改ム

第六十三條中「開票所」ヲ「選擧會場」ニ改ム

第七章　削除

第六十四條　削除

第六十五條　削除

第六十六條　削除

第六十七條　削除

第六十八條　削除

第六十九條　削除

第七十條中第二項乃至第五項ヲ削リ左ノ二項ヲ加フ

當選人ヲ定ムルニ當リ投票數同シキトキハ年齡ニ依リ年齡同シキトキハ抽籤シテ其ノ順位ヲ定ム

判決ニ依リ當選無效トナリタルトキハ選擧長ハ前二項ノ例ニ依リ更ニ當選人ヲ定ムヘシ

第七十一條　當選人定マリタルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ氏名、得票數及選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數其ノ他選擧ノ結果ヲ地方長官ニ報告スヘシ

前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選人ナキトキハ選擧長ハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第七十二條中「選擧長」ヲ「地方長官」ニ改ム

第七十四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

當選人其ノ當選ヲ辭シ若ハ死亡シ又ハ當選人ナキトキハ地方長官ハ選擧ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ告示シ更ニ選擧ヲ行ハシムヘシ但シ第七十條第二項ニ依リ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ死亡シタルトキハ選擧長ハ次ノ順位者ヲ當選人ト定ムヘシ

同條第三項ヲ左ノ如ク改ム

選擧ニ關スル罰則ニ依リ處罰セラレタル結果當選無效トナリタル者アルトキハ地方長官ハ第一項ノ例ニ依リ更ニ選擧ヲ行ハシムヘシ

第七十八條中第一項ヲ削リ第二項ヲ左ノ如ク改ム

議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ命ニ依リ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ補闕選擧ヲ行フヘシ

第八十六條中「十圓以上」ヲ削ル

第八十七條　選擧ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　投票ヲ得ルノ目的ヲ以テ金錢、物品、手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選擧人又ハ選

擧運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者並其ノ供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者

二　投票ヲ得ルノ目的ヲ以テ酒食遊覽其ノ他方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ選擧會場若ハ投票所ニ往復スル爲船車馬ノ類ヲ供給シ又ハ旅費休泊料ノ類ヲ代辨シタル者並此等ノ約束ヲ爲シタル者及其ノ饗應接待若ハ船車馬ノ類ノ供給ヲ受ケタル者又ハ旅費休泊料ノ類ノ代辨ヲ受ケタル者並此等ノ約束ヲ受ケタル者

三　投票ヲ得ルノ目的ヲ以テ選擧人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選擧人ヲ誘導シタル者及其ノ誘導ニ應シタル者

投票ヲ得シメ又ハ投票ヲ妨クルノ目的ヲ以テ前項各號ニ該當スル所爲ヲ爲シタル者亦同シ

前二項ノ場合ニ於テ其ノ收受シタル物件ハ之ヲ沒收シ既ニ費用シタルモノハ其ノ價ヲ追徵ス

第八十八條中「一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ヲ「二年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ改メ第一號中選擧人ノ下ニ「、議員候補者、選擧運動者ヲ」加フ

第八十九條　選擧事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人及監視者選擧人ノ投票シタル被選擧人ノ氏名ヲ表示シ又ハ其ノ選擧區ノ投票結了前票數ヲ表示シタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス其ノ表示シタル事實虛僞ナルトキ亦同シ

第九十條中「開票所」ヲ「選擧會場」ニ、「一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上」ヲ「一年以下ノ禁錮又ハ」ニ、「ノ罰亦前項ニ同シ」ヲ「ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス」ニ改ム

第九十一條中「開票管理者、」及「、開票所」ヲ削リ「四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處ス」ヲ「五年以下ノ禁錮ニ處ス」ニ改メ第二項ヲ左ノ如ク改ム

多衆聚合シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス其ノ情ヲ知テ勢ヲ助ケタル者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十二條中「開票所、」ヲ削リ「ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス」ヲ「聚合シタル者ハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ改メ第二項ヲ削ル

第九十三條中「選擧人、議員候補者及選擧運動者ニシテ」ヲ削リ「二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上」ヲ「二年以下ノ禁錮又ハ」ニ改ム

第九十四條中「、開票所」ヲ削リ「前條ノ例ニ依リ一等ヲ加フ」ヲ「三年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ改ム

第九十五條中「十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上」ヲ「六月以下ノ禁錮又ハ」ニ改ム

第九十七條中「六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ヲ「一年以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ改ム

第九十八條中「一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ヲ「一年以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ改ム

第九十九條中「五圓以上」ヲ削ル

第百條中「第九十二條第二項」ヲ削ル

第百二條　選擧ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ判決ヲ以テ罰金ニ付テハ判決確定ノ日ヨリ其ノ他ノ刑ニ付テハ其ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ二年以上八年以下選擧人及被選擧人タルコトヲ禁ス

第百六條第一項中「掌ル」ヲ「掌リ町村役場トアルハ戶長役場又ハ之ニ準スヘキモノニ該當ス」ニ

改メ第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

郡長ヲ置カサル地ニ於テハ本法ニ規定シタル郡長ノ職務ハ北海道廳支廳長、島司又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ掌リ郡役所トアルハ北海道廳支廳、島廳又ハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

東京市、大阪市ノ區及北海道、沖繩縣ノ區ニ付テハ本法中市トアルハ區、市長トアルハ區長、市役所トアルハ區役所ニ該當ス

第百七條中「開票管理者、」ヲ削ル

第百十條中「及」ヲ削リ「沖繩縣」ノ下「其ノ他交通不便ノ地」ヲ加フ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ次ノ總選擧前ノ議員補闕ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法ハ北海道廳根室支廳管内千島ニ屬スル諸郡及東京府小笠原島ニハ當分ノ内之ヲ施行セス

沖繩縣ニ於テ初メテ議員ヲ選擧スルニ付必要ナル選擧人名簿ノ調製ニ限リ第十八條乃至第二十條第二十四條第二十六條第二十七條ノ期日及期間ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ選擧人名簿ハ次ノ選擧人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

(別表)

東京府

議員總數　二十四人

第一區	麴町區、四谷區	一人
第二區	麻布區、赤坂區	一人
第三區	芝區	一人
第四區	京橋區	二人
第五區	日本橋區	一人
第六區	本所區、深川區	三人
第七區	淺草區	二人
第八區	神田區	一人
第九區	下谷區	二人

第十區	本郷區	一人
第十一區	小石川區 牛込區	二人
第十二區	豐多摩郡	一人
第十三區	北豐島郡	一人
第十四區	南足立郡 南葛飾郡	一人
第十五區	荏原郡 伊豆七島	一人
第十六區	南多摩郡	一人
第十七區	西多摩郡	一人
第十八區	北多摩郡	一人

京都府

議員總數 八人

第一區	京都市	三人
第二區	愛宕郡 葛野郡 乙訓郡 紀伊郡	一人
第三區	宇治郡 久世郡 綴喜郡 相樂郡	一人
第四區	南桑田郡 北桑田郡 船井郡	一人
第五區	天田郡 何鹿郡	一人

加佐郡
與謝郡
中郡
竹野郡
第六區　熊野郡　一人

大阪府

議員總數　十七人

第一區　西區　二人
第二區　東區　二人
第三區　北區　二人
第四區　南區　三人
第五區　堺市　一人
西成郡
第六區　東成郡　二人

北河内郡
三島郡
第七區　豐能郡　一人
第八區　中河内郡　一人
第九區　南河内郡　一人
第十區　泉北郡　一人
第十一區　泉南郡　一人

神奈川縣

議員總數　九人

第一區　橫濱市　三人
第二區　橫須賀市　一人
久良岐郡
第三區　橘樹郡　一人
都筑郡

第四區	三浦郡 鎌倉郡	一人
第五區	高座郡 愛甲郡 津久井郡	一人
第六區	中郡	一人
第七區	足柄上郡 足柄下郡	一人

兵庫縣

議員總數十六人

第一區	神戸市	三人
第二區	姫路市	一人
第三區	武庫郡 川邊郡	二人

第四區	有馬郡 多紀郡 氷上郡	一人
第五區	明石郡 美嚢郡	一人
第六區	加古郡 印南郡	一人
第七區	加東郡 多可郡 加西郡	一人
第八區	飾磨郡 神崎郡	一人
第九區	揖保郡 宍粟郡	二人

	赤穂郡 佐用郡	
第十區	城崎郡 美方郡	一人
第十一區	出石郡 養父郡 朝來郡	一人
第十二區	津名郡 三原郡	一人

長崎縣

議員總數九人

第一區	長崎市	一人
第二區	佐世保市	一人
第三區	西彼杵郡	一人

第四區	東彼杵郡	一人
第五區	北高來郡 南高來郡	二人
第六區	北松浦郡	一人
第七區	南松浦郡 壹岐郡	一人
第八區	對馬	一人

新潟縣

議員總數十五人

第一區	新潟市	一人
第二區	長岡市	一人
第三區	西蒲原郡	一人
第四區	北蒲原郡 東蒲原郡	二人

	岩船郡	
第五區	中蒲原郡	一人
第六區	南蒲原郡 古志郡	二人
第七區	三島郡 刈羽郡	二人
第八區	北魚沼郡 南魚沼郡	一人
第九區	中魚沼郡 東頸城郡	一人
	高田市	
第十區	中頸城郡 西頸城郡	二人
第十一區	佐渡郡	一人

埼玉縣

議員總數 十人

第一區	北足立郡	二人
第二區	入間郡	二人
第三區	比企郡 大里郡	二人
第四區	南埼玉郡 北葛飾郡	二人
第五區	北埼玉郡	一人
第六區	兒玉郡 秩父郡	一人

群馬縣

議員總數 九人

第一區	前橋市	一人

第二區	高崎市	一人
第三區	新田郡 山田郡 邑樂郡	二人
第四區	群馬郡 吾妻郡 碓氷郡	二人
第五區	佐波郡 利根郡 勢多郡	二人
第六區	北甘樂郡 多野郡	一人

千葉縣

議員總數　十人

第一區	千葉郡 市原郡	一人
第二區	印旛郡	一人
第三區	東葛飾郡	一人
第四區	香取郡	一人
第五區	海上郡 匝瑳郡	一人
第六區	山武郡 長生郡	二人
第七區	夷隅郡	一人
第八區	君津郡	一人
第九區	安房郡	一人

茨城縣

議員總數　十人

第一區　水戸市　一人

第二區　東茨城郡　一人

第三區　那珂郡　一人

第四區　久慈郡　多賀郡　一人

第五區　鹿島郡　行方郡　二人

第六區　新治郡　一人

第七區　西茨城郡　眞壁郡　一人

第八區　結城郡　筑波郡　一人

第九區　稻敷郡　北相馬郡　一人

第十區　猿島郡　一人

栃木縣

三　議員總數　八人

第一區　宇都宮市　一人

第二區　河内郡　芳賀郡　二人

第三區　下都賀郡　一人

第四區　上都賀郡　一人

第五區　安蘇郡　足利郡　一人

第六區　鹽谷郡　那須郡　二人

奈良縣

議員總數　五人

第一區	奈良市	一人
第二區	添上郡 山邊郡 生駒郡	一人
第三區	磯城郡 宇陀郡	一人
第四區	北葛城郡 南葛城郡 高市郡	一人
第五區	宇智郡 吉野郡	一人

三重縣

議員總數　十　人

第一區	津市	一人

第二區	四日市市	一人
第三區	宇治山田市	一人
第四區	安濃郡 一志郡 鈴鹿郡	一人
第五區	河藝郡 三重郡	一人
第六區	員辨郡 桑名郡	一人
第七區	飯南郡 多氣郡 度會郡	一人
第八區	志摩郡 北牟婁郡	二人

南牟婁郡

第九區　阿山郡　名賀郡　一人

愛知縣

議員總數　十五人

第一區　名古屋市　三人

第二區　豐橋市　一人

第三區　愛知郡　一人

第四區　東春日井郡　西春日井郡　一人

第五區　丹羽郡　葉栗郡　一人

第六區　中島郡　一人

第七區　海東郡　一人

海西郡

第八區　知多郡　一人

第九區　碧海郡　幡豆郡　一人

第十區　額田郡　西加茂郡　東加茂郡　二人

第十一區　北設樂郡　南設樂郡　寶飯郡　一人

第十二區　渥美郡　八名郡　一人

靜岡縣

議員總數　十二人

第一區　静岡市　一人
第二區　濱松市　一人
第三區　安倍郡　一人
第四區　富士郡　庵原郡　一人
第五區　駿東郡　一人
第六區　志太郡　一人
第七區　榛原郡　一人
第八區　小笠郡　一人
第九區　周智郡　磐田郡　一人
第十區　濱名郡　引佐郡　二人
第十一區　賀茂郡　田方郡　一人

山梨縣

議員總數五人

第一區　甲府市　一人
第二區　西山梨郡　東山梨郡　北巨摩郡　中巨摩郡　二人
第三區　東八代郡　西八代郡　南巨摩郡　一人
第四區　南都留郡　北都留郡　一人

滋賀縣

議員總數　六人

第一區	大津市	一人
第二區	滋賀郡　高島郡	一人
第三區	甲賀郡　野洲郡　栗太郡	一人
第四區	蒲生郡　神崎郡	二人
第五區	愛知郡　犬上郡	一人
第六區	阪田郡　東淺井郡　伊香郡	一人

岐阜縣

議員總數　九人

第一區	岐阜市	一人
第二區	稻葉郡　山縣郡	一人
第三區	羽島郡　海津郡　養老郡	一人
第四區	不破郡　安八郡	一人
第五區	揖斐郡　本巢郡	一人
第六區	武儀郡　郡上郡	一人

第七區	加茂郡 可兒郡	一人
第八區	土岐郡 惠那郡	一人
第九區	大野郡 益田郡 吉城郡	一人

長野縣

議員總數　十二人

第一區	長野市	一人
第二區	松本市	一人
第三區	上水内郡 下水内郡	一人
第四區	上高井郡 下高井郡	一人
第五區	更級郡 埴科郡	一人
第六區	小縣郡	一人
第七區	東筑摩郡 西筑摩郡	一人
第八區	南安曇郡 北安曇郡	一人
第九區	南佐久郡 北佐久郡	一人
第十區	諏訪郡	一人
第十一區	上伊那郡	一人
第十二區	下伊那郡	一人

宮城縣

議員總數　七人

第一區	仙臺市	一人
第二區	宮城郡 名取郡	一人
第三區	柴田郡 刈田郡 伊具郡 亘理郡	一人
第四區	黑川郡 加美郡 志田郡 遠田郡	一人
第五區	玉造郡 栗原郡	一人
第六區	登米郡 本吉郡	一人
第七區	桃生郡 牡鹿郡	一人

福島縣

議員總數　十一人

第一區	福島市	一人
第二區	若松市	一人
第三區	信夫郡 伊達郡	二人
第四區	安達郡 安積郡	一人
第五區	田村郡 石川郡	一人

區	郡市	人數
第六區	岩瀬郡 東白川郡 西白河郡	一人
第七區	南會津郡 北會津郡 大沼郡	一人
第八區	河沼郡 耶麻郡	一人
第九區	石城郡	一人
第十區	雙葉郡 相馬郡	一人

巖手縣

議員總數七人

區	郡市	人數
第一區	盛岡市	一人

區	郡市	人數
第二區	巖手郡 紫波郡	一人
第三區	二戸郡 九戸郡	一人
第四區	下閉伊郡 上閉伊郡	一人
第五區	稗貫郡 和賀郡 膽澤郡	一人
第六區	江刺郡 氣仙郡	一人
第七區	西磐井郡 東磐井郡	一人

青森縣

議員總數　七人

第一區	青森市	一人
第二區	弘前市	一人
第三區	南津輕郡	一人
第四區	東津輕郡 上北郡 下北郡	一人
第五區	三戶郡	一人
第六區	中津輕郡 北津輕郡 西津輕郡	二人

山形縣

議員總數　八人

第一區	山形市	一人
第二區	米澤市	一人
第三區	南村山郡 東村山郡 西村山郡	二人
第四區	東置賜郡 南置賜郡 西置賜郡	一人
第五區	東田川郡 西田川郡 飽海郡	二人
第六區	最上郡 北村山郡	一人

秋田縣

議員總數　八人

第一區　秋田市　一人
第二區　南秋田郡　一人
第三區　山本郡　一人
第四區　北秋田郡　鹿角郡　一人
第五區　河邊郡　由利郡　一人
第六區　仙北郡　一人
第七區　平鹿郡　一人
第八區　雄勝郡　一人

福井縣

議員總數　五人

第一區　福井市　一人
第二區　足羽郡　一人
第三區　大野郡　吉田郡　阪井郡　一人
第四區　丹生郡　今立郡　南條郡　一人
第五區　敦賀郡　三方郡　遠敷郡　大飯郡　一人

石川縣

議員總數　六人

第一區　金澤市　一人
第二區　石川郡　一人

第三區	能美郡・江沼郡	一人
第四區	河北郡・羽咋郡・鹿島郡	二人
第五區	鳳至郡・珠洲郡	一人

富山縣

議員總數　七人

第一區	富山市	一人
第二區	高岡市	一人
第三區	上新川郡・中新川郡・下新川郡	二人

第四區	婦負郡・東礪波郡・西礪波郡	二人
第五區	射水郡・氷見郡	一人

鳥取縣

議員總數　四人

第一區	鳥取市	一人
第二區	岩美郡・八頭郡	一人
第三區	氣高郡・東伯郡	一人
第四區	西伯郡・日野郡	一人

島根縣

議員總數　七人

第一區	松江市 八束郡	一人
第二區	能義郡 仁多郡	一人
第三區	大原郡 飯石郡 簸川郡	二人
第四區	安濃郡 邇摩郡 邑智郡	一人
第五區	那賀郡 美濃郡	一人

第六區	鹿足郡 隱岐	一人

岡山縣

議員總數　十人

第一區	岡山市	一人
第二區	御津郡 兒島郡	一人
第三區	上道郡 赤磐郡 和氣郡 邑久郡	二人
第四區	都窪郡 吉備郡 淺口郡	一人

第五區	小田郡 後月郡	二人
第六區	川上郡 上房郡 阿哲郡	一人
第七區	眞庭郡 久米郡	一人
第八區	苫田郡 勝田郡 英田郡	一人

廣島縣

議員總數　十三人

第一區	廣島市	一人
第二區	呉市	一人

第三區	尾道市	一人
第四區	安藝郡	一人
第五區	佐伯郡	一人
第六區	安佐郡 山縣郡 高田郡	二人
第七區	賀茂郡	一人
第八區	豐田郡	一人
第九區	御調郡 世羅郡	一人
第十區	雙三郡 比婆郡	一人
第十一區	神石郡 甲奴郡	一人

蘆品郡

第十二區	深安郡 沼隈郡	一人

山口縣

議員總數　九人

第一區	下關市	一人
第二區	吉敷郡	一人
第三區	佐波郡	一人
第四區	美禰郡 厚狹郡	一人
第五區	阿武郡 大津郡	一人
第六區	豐浦郡	一人
第七區	都濃郡	一人

第八區	熊毛郡 大島郡	一人
第九區	玖珂郡	一人

和歌山縣

議員總數　六人

第一區	和歌山市	一人
第二區	海草郡	一人
第三區	伊都郡 那賀郡 有田郡	二人
第四區	日高郡	一人
第五區	西牟婁郡 東牟婁郡	一人

德島縣

議員總數　六人

第一區	徳島市	一人
第二區	名東郡 勝浦郡	一人
第三區	那賀郡 海部郡	一人
第四區	名西郡 阿波郡 麻植郡	一人
第五區	板野郡	一人
第六區	美馬郡 三好郡	一人

香川縣

議員總數　七人

衆議院議員選擧法中改正法律案特別委員會

第一區	高松市	一人
第二區	丸龜市	一人
第三區	香川郡 小豆郡	一人
第四區	大川郡 木田郡	一人
第五區	綾歌郡	一人
第六區	仲多度郡	一人
第七區	三豐郡	一人

愛媛縣

議員總數　九人

第一區	松山市	一人
第二區	温泉郡 伊豫郡	二人

第三區	越智郡 周桑郡	二人
第四區	新居郡 宇摩郡	一人
第五區	上浮穴郡 喜多郡	一人
第六區	東宇和郡 西宇和郡	一人
第七區	北宇和郡 南宇和郡	一人

高知縣

議員總數 六人

第一區	高知市 土佐郡	一人

第二區	吾川郡 長岡郡	二人
第三區	香美郡 安藝郡	一人
第四區	高岡郡	一人
第五區	幡多郡	一人

福岡縣

議員總數 十六人

第一區	福岡市	一人
第二區	久留米市	一人
第三區	門司市	一人
第四區	小倉市	一人
第五區	早良郡 糸島郡	一人

第六區	糟屋郡 宗像郡	一人
第七區	遠賀郡	一人
第八區	鞍手郡 嘉穗郡	一人
第九區	筑紫郡 朝倉郡	一人
第十區	三井郡 浮羽郡	一人
第十一區	三潴郡	一人
第十二區	八女郡	一人
第十三區	山門郡	一人
第十四區	三池郡	一人
第十五區	企救郡 田川郡	一人
第十六區	京都郡 築上郡	一人

大分縣

議員總數 七人

第一區	大分市 大分郡	一人
第二區	北海部郡 南海部郡	一人
第三區	大野郡 直入郡	一人
第四區	玖珠郡 日田郡	一人
第五區	西國東郡	一人

	東國東郡	
	下毛郡	
第六區	宇佐郡	二人
	速見郡	

佐賀縣

議員總數六人

第一區	佐賀市	一人
第二區	佐賀郡	一人
第三區	神埼郡	一人
	三養基郡	
第四區	小城郡	二人
	杵島郡	
	藤津郡	
第五區	東松浦郡	一人

	西松浦郡	

熊本縣

議員總數十人

第一區	熊本市	一人
第二區	飽託郡	一人
第三區	玉名郡	一人
第四區	鹿本郡	二人
	菊池郡	
	阿蘇郡	
第五區	上益城郡	二人
	下益城郡	
	宇土郡	
第六區	八代郡	二人
	葦北郡	

球磨郡

第七區　天草郡　一人

宮崎縣

議員總數　四人

第一區　宮崎郡　兒湯郡　南那珂郡　二人

第二區　北諸縣郡　西諸縣郡　東諸縣郡　一人

第三區　東臼杵郡　西臼杵郡　一人

鹿兒島縣

議員總數　十人

第一區　鹿兒島市　一人

第二區　鹿兒島郡　揖宿郡　一人

第三區　川邊郡　一人

第四區　日置郡　一人

第五區　薩摩郡　出水郡　二人

第六區　熊毛郡　肝屬郡　一人

第七區　伊佐郡　始良郡　噌唹郡　二人

第八區　大島　一人

沖・繩縣

議員總數　四人

第一區	那覇區 島尻郡	一人
第二區	宮古郡 八重山郡	一人
第三區	首里區 中頭郡	一人
第四區	國頭郡	一人

北海道

議員總數　十二人

第一區	札幌區	一人
第二區	小樽區	一人
第三區	函館區	一人
第四區	札幌支廳管內	一人

第五區	空知支廳管內 增毛支廳管內	二人
第六區	上川支廳管內	一人
第七區	宗谷支廳管內 網走支廳管內 根室支廳管內 釧路支廳管內 河西支廳管內	二人
第八區	浦河支廳管內 室蘭支廳管內	一人
第九區	函館支廳管內 檜山支廳管內	一人
第十區	後志支廳管內	一人

本表ハ十年間ハ之ヲ更正セス

（附記）本委員會議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○副委員長男爵有地品之允　散會ヲ命ス

散會　午後零時十三分

第二回　明治四十五年三月十二日

出席委員

委員長　子爵　三島彌太郎　副委員長男爵　有地品之允
委員　侯爵　德川賴倫　同　伯爵　川村鐵太郎
同　子爵　松平直平　同　子爵　松平親信
同　子爵　水野直　同　淺田德則
同　男爵　久保田讓　同　江木千之
同　石渡敏一　同　高木豐三
同　有松英義　同　鎌田榮吉
同　濱口吉右衛門　同　桑田熊藏

出席委員外議員

伯爵　柳澤保惠

出席國務大臣

內務大臣　原敬

出席政府委員

內務次官　床次竹次郎
內務省神社局長　井上友一
內務省土木局長兼內務省地方局長　水野錬太郎

開會　午後一時二十七分

○委員長子爵三島彌太郎　開會ヲ宣告ス

○委員長子爵三島彌太郎　散會ヲ命ス

散會　午後四時三十三分

第三回　明治四十五年三月十四日

出席委員

副委員長男爵　有地品之允　委員　公爵　二條基弘

同　侯爵　徳川頼倫　　同　伯爵　川村鐵太郎

同　子爵　松平直平　　同　子爵　松平親信

同　子爵　水野直　　同　淺田徳則

同　村田保　　同　男爵　久保田讓

同　江木千之　　同　石渡敏一

同　高木豐三　　同　有松英義

同　鎌田榮吉　　同　濱口吉右衛門

同　桒田熊藏

出席國務大臣

内務大臣　原敬

出席政府委員

内務次官　床次竹二郎

内務省神社局長　井上友一

内務省土木局長兼内務省地方局長　水野錬太郎

内務省警保局長　古賀廉造

司法次官　平沼騏一郎

開會　午前十時二十七分

○副委員長男爵有地品之允　開會ヲ宣告ス

○副委員長男爵有地品之允　休憩ヲ命ス

休憩　午前十一時四十六分

開會　午後一時十三分

○副委員長男爵有地品之允　開會ヲ宣告ス

○副委員長男爵有地品之允　散會ヲ命ス

散會　午後三時二十九分

（附記一）　同日委員淺田徳則ハ本案ノ審査ヲ更ニ同案特別委員副委員長及副委員長ノ指名スル委員六名ノ小委員ニ付託セムコトヲ發議シ委員會ハ其ノ動議ヲ可決シタルヲ以テ副委員長男爵有地品之允ハ左ノ如ク指名シタリ

伯爵　川村鐵太郎

子爵 松平親信

淺田德則

男爵 久保田讓

有松英義

桑田熊藏

（附記二）衆議院議員選擧法中改正法律案特別委員小委員會ハ明治四十五年三月十五日、三月十六日會議ヲ開キ審査ヲ遂ケ修正案ヲ提出シタリ

第四回　明治四十五年三月十八日

出席委員

副委員長男爵 有地品之允　委員 公爵 二條基弘

同 侯爵 德川賴倫　同 伯爵 川村鐵太郎

同 子爵 松平直平　同 子爵 松平親信

同 子爵 水野直　同 淺田德則

同 村田保　同 男爵 久保田讓

同 江木千之　同 石渡敏一

同 高木豐三　同 有松英義

同 鎌田榮吉　同 濱口吉右衞門

同 桑田熊藏

出席政府委員

內務次官 床次竹二郎

內務省土木局長兼內務省地方局長 水野錬太郎

司法次官 平沼騏一郎

開會　午前十一時二十九分

○副委員長男爵有地品之允　開會ヲ宣告ス

○副委員長男爵有地品之允　休憩ヲ命ス

休憩　午後零時十分

開會　午後一時十九分

○副委員長男爵有地品之允　開會ヲ宣告ス

○副委員長男爵有地品之允　散會ヲ命ス

散會・午後一時三十六分

（附記）同日議長ニ提出シタル副委員長ノ報告左ノ如シ

衆議院議員選擧法中改正法律案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月十八日

右特別委員副委員長

男爵　有地品之允

貴族院議長公爵德川家達殿

（附記）別冊略之、貴族院議事速記錄第十二號百二十二頁乃至百三十五頁參照

委員長　子爵　三島彌太郎印

副委員長　男爵　有地品之允印

鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案特別委員會

委員選擧

○明治四十五年三月十二日議長ノ指名ヲ以テ鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

公爵　德川慶久
伯爵　寺島誠一郎
子爵　青山幸宜
子爵　新莊直陳
子爵　入江爲守
男爵　田健治郎
谷森眞男
仲小路廉
廣瀨滿正

委員長及副委員長選擧

○明治四十五年三月十四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 公爵 徳川慶久
副委員長 男爵 田健治郎

會議

第一回 明治四十五年三月十四日

出席委員

委員長 公爵 徳川慶久　副委員長男爵 田健治郎
委員 伯爵 寺島誠一郎　同 子爵 青山幸宜
同 子爵 新莊直陳　同 子爵 入江爲守
同 谷森眞男　同 仲小路廉
同 廣瀨滿正

○出席政府委員

鐵道院副總裁 平井晴二郎
鐵道院理事 山之内一次
鐵道院理事 森本邦治郎
拓殖局部長 江木翼
朝鮮總督府鐵道局技監 大屋權平
司法省民事局長 齋藤十一郎
遞信省管船局長 湯河元臣

開會 午前十時二十八分

○委員長公爵徳川慶久 開會ヲ宣告ス

（參照）

鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案

第一條 鐵道又ハ船舶カ主務大臣ノ認可ヲ得タル契約ニ依リ露國ノ鐵道又ハ船舶ト物品ノ聯絡運送ヲ爲ス場合ニ於テハ本法ニ依ル

第二條 鐵道營業法第五條乃至第九條ノ規定ハ船舶ニ之ヲ準用ス但シ運送品ノ發送ハ運送申込ノ順序ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

第三條 運送契約ハ鐵道又ハ船舶カ運送ヲ爲スコトヲ約シ荷送人ヨリ運送品及運送狀ヲ受取ル

ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

鐵道又ハ船舶カ運送契約ヲ爲シタルトキハ荷送人ニ運送狀ノ副狀ヲ交付スヘシ

運送狀及運送狀ノ副狀ニ記載スヘキ事項及其ノ記載ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　運送狀、貨物引換證及船荷證劵ニ關スル商法ノ規定ハ之ヲ適用セス

第五條　鐵道又ハ船舶ノ使用人ハ運送狀ノ作成ニ付テハ荷送人ノ代理人ト爲ルコトヲ得

第六條　特定ノ者ニ對シ運送賃ノ割引ヲ爲ス特約ハ之ヲ無效トス但シ總テノ鐵道及船舶ノ合意ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　運送品及運送狀ヲ受取リタルトキハ荷受人ハ運送狀ニ記載シタル金額ヲ鐵道又ハ船舶ニ支拂フ義務ヲ負フ

前項ノ支拂ハ荷送人竝總テノ鐵道及船舶ニ對シテ之ヲ爲シタルモノトス

第八條　鐵道又ハ船舶ハ運送品ヲ受取リタル旨ヲ記載シタル運送狀ノ副狀及運送狀ニ記載シタル金額ト引換ニ非サレハ運送品ヲ荷受人ニ引渡スコトヲ要セス但シ運送狀ノ副狀ヲ紛失シタル場合ニ於テ鐵道又ハ船舶ノ定ムル規程ニ依リ荷受人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　運送品引渡ニ關スル手續ニ付テハ鐵道又ハ船舶ノ定ムル規程ニ依ル

第十條　運送品ノ全部若ハ一部ノ滅失又ハ毀損ニ關シテハ鐵道又ハ船舶ハ直ニ運送品ノ狀態竝損害ノ原因、額及發生時期ヲ證スル書面ヲ作成スヘシ運送契約ニ基キ運送品ニ付權利ヲ有スル者カ運送品ノ全部若ハ一部ノ滅失又ハ毀損アルコトヲ主張スルトキ亦同シ

前項ノ書面ニ記載シタル事項ハ請求ニ因リ利害關係人ニ之ヲ通知スヘシ

第十一條　荷受人ハ損害ノ調査ノ完了スル迄運送品ノ受取ヲ拒ムコトヲ得

第十二條　運送狀ニ掲ケタル物品中不足アルトキハ荷受人ハ運送品受取ノ際鐵道又ハ船舶ニ對シ之ヲ證スル書面ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十三條　鐵道又ハ船舶ノ責任ハ荷受人カ運送品ヲ受取リ且運送賃其ノ他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　荷受人カ鐵道又ハ船舶ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ損害ノ生シタルコトヲ證明シタルトキ

二．荷受人カ運送品ヲ受取リタル日ヨリ十四日内ニ第十六條第二項ノ鐵道又ハ船舶ノ一ニ對

シ延著ニ關スル損害賠償ノ請求ヲ爲シタルトキ

三　荷受人カ第十條第一項ノ規定ニ依リテ證明セラレタル運送品ノ一部滅失又ハ毀損ニ付損害賠償ノ請求ヲ爲シタルトキ

四　鐵道又ハ船舶カ第十條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ調査ヲ其ノ過失ニ因リ爲サヽリシ運送品ノ一部滅失又ハ毀損ニ付荷受人カ損害賠償ノ請求ヲ爲シタルトキ

五　荷受人カ直ニ發見スルコト能ハサル運送品ノ一部滅失又ハ毀損ニ付損害賠償ノ請求ヲ爲シタルトキ但シ運送品ヲ受取リタル日ヨリ十四日内ニ鐵道又ハ船舶ニ對シ一部滅失又ハ毀損ノ通知ヲ發シタルトキニ限ル

前項ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十四條　運送品カ到達驛又ハ到達港ニ達シタル後稅關又ハ保稅倉庫ニ之ヲ引渡シタルトキハ其ノ後ニ生シタル運送品ノ滅失又ハ毀損ニ因ル損害ニ付テハ鐵道又ハ船舶ハ其ノ責ニ任セス荷送人トノ間ニ於ケル契約ノ定ムル所ニ依リ私設倉庫ニ引渡シタルトキ亦同シ

第十五條　惡意又ハ重大ナル過失ニ因ラサル運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付テハ鐵道又ハ船舶ハ其ノ責任ニ關シ特約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ特約ハ荷受人ニ對シ及荷受人ノ爲ニ其ノ效力ヲ生ス

第十六條　運送契約ヲ爲シタル鐵道又ハ船舶竝運送狀ト共ニ運送品ノ引繼ヲ受ケタル鐵道及船舶ハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

前項ノ損害賠償ノ請求ノ訴ハ運送契約ヲ爲シタル鐵道若ハ船舶、最後ニ運送狀ト共ニ運送品ノ引繼ヲ受ケタル鐵道若ハ船舶又ハ損害ヲ生セシメタル鐵道若ハ船舶ノ一ニ對シテノミ之ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ損害賠償ノ請求ハ本訴カ同一ノ運送契約ニ基ク場合ニ於テハ反訴又ハ相殺ノ抗辯ニ依リ前項以外ノ鐵道又ハ船舶ニ對シ之ヲ主張スルコトヲ得

第十七條　引渡期間滿了後三十日内ニ運送品ノ引渡ナキトキハ運送品ハ滅失シタルモノト推定ス

第十八條　鐵道又ハ船舶カ運送狀ノ副狀ノ呈示ヲ荷送人ニ請求セスシテ其ノ指圖ニ從ヒタルトキハ鐵道又ハ船舶ハ運送狀ノ副狀ヲ所持スル荷受人ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第十九條　滅失シタル運送品ニ對スル賠償金ヲ受取リタル者其ノ受取證書中ニ運送品カ引渡期

間滿了後四月内ニ發見セラレタル場合ニ於テ直ニ鐵道又ハ船舶ヨリ通知ヲ受クヘキ旨ヲ記載シタルトキハ其ノ通知ヲ受クル權利ヲ有ス鐵道又ハ船舶ハ此ノ記載ヲ證スル書面ヲ交付スヘシ

運送品カ發見セラレタルトキハ前項ノ權利者ハ賠償金ヲ返還シテ發送驛若ハ發送港又ハ到達驛若ハ到達港ニ於テ無償ニテ運送品ヲ引渡スヘキコトヲ請求スルコトヲ得但シ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　鐵道又ハ船舶ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ生シタル運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ關スル損害賠償ノ請求權ハ三年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第二十一條　損害賠償ノ請求權ノ消滅時效ハ運送品ノ一部滅失又ハ毀損ノ場合ニ於テハ引渡ノ日ヨリ、運送品ノ全部滅失又ハ延著ノ場合ニ於テハ引渡期間滿了ノ日ヨリ進行ス

第二十二條　運送賃又ハ附帶料金ノ不足額追徵ノ請求權ハ運送賃又ハ附帶料金ノ支拂ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

割增金徵收ノ請求權ハ運送賃支拂ノ日ヨリ、支拂フヘキ運送賃ナキトキハ運送契約ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

運送賃、附帶料金又ハ割增金ノ過徵額返還ノ請求權ハ過徵額支拂ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第二十三條　鐵道又ハ船舶ニ對スル運送賃又ハ附帶料金ノ過徵額返還ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ書面ニ記載スヘキ事項及之ニ添附スヘキ書類ハ鐵道又ハ船舶ノ定ムル規程ニ依ル

第二十四條　運送賃若ハ附帶料金ノ不足額ノ追徵又ハ其ノ過徵額ノ返還ノ請求權、割增金ノ徵收又ハ返還ノ請求權及運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ關スル損害賠償ノ請求權ニ付テハ書面ヲ以テ請求ヲ爲シタル時ヨリ時效ノ進行ヲ停止ス

前項ノ請求ヲ受ケタル者カ書面ヲ以テ拒絕ノ旨ヲ通知シ且請求書ニ添附シタル書類ヲ返還シタルトキハ其ノ通知及返還ノ時ヨリ殘餘期間ニ付時效ハ進行ス再請求ヲ爲スモ時效ノ進行ヲ停止セス

第二十五條　鐵道又ハ船舶ニ對スル損害賠償ノ請求權ニ付テハ民法第百四十五條及第五百八條ノ規定ヲ適用セス

第二十六條　運送契約ニ基ク裁判上ノ請求ニシテ鐵道又ハ船舶ニ對スルモノハ荷送人又ハ荷受

人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　聯絡運送ニ關スル訴訟ニ付テハ民事訴訟法第八十八條第一項ノ規定ヲ適用セス

第二十八條　鐵道又ハ船舶カ他ノ鐵道又ハ船舶ヲ共同被告トシ聯絡運送ニ基ク損害賠償ノ求償ノ訴ヲ提起シタルトキハ裁判所ハ同一ノ判決ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

第二十九條　聯絡運送ニ關シテ露國裁判所ノ爲シタル判決ノ執行判決ニ付テハ民事訴訟法第五百十五條第二項第五號ノ規定ヲ適用セス

第三十條　第八條但書、第九條及第二十三條第二項ノ規程ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ且之ヲ告示スヘシ

第三十一條　本法ニ於テ裁判所ト稱スルハ裁判權ヲ行フ官廳ヲ謂フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（附記）本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長公爵徳川慶久　休憩ヲ命ス

休憩　午前十二時

開會　午後零時四十六分

○委員長公爵徳川慶久　開會ヲ宣告ス

○委員長公爵徳川慶久　散會ヲ命ス

散會　午後二時五十一分

第二回　明治四十五年三月十五日

出席委員

委員長　公爵　徳川慶久　副委員長男爵　田健治郎

委員　伯爵　寺島誠一郎　同　子爵　青山幸宜

同　子爵　新莊直陳　同　子爵　入江爲守

同　谷森眞男　同　仲小路廉

同　廣瀬滿正

出席政府委員

鐵道院副總裁　平井晴二郎

鐵道院理事　山之内一次

司法省民事局長　齋藤十一郎

遞信省管船局長　湯河元臣

開會　午前十時三十五分

○委員長公爵徳川慶久　開會ヲ宣告ス

○委員長公爵徳川慶久　散會ヲ命ス

散會　午前十一時

（附記）同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月十五日

右特別委員長　公爵　徳川慶久

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長　公爵　徳川慶久印

副委員長　男爵　田健治郎印

陸軍作業會計法中改正法律案特別委員會

委員選擧

○明治四十五年三月十二日議長ノ指名ヲ以テ陸軍作業會計法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵　松平直之
子爵　樋口誠康
男爵　沖原光孚
男爵　山名義路
男爵　山内長人
男爵　外松孫太郎
男爵　北大路實信
森田庄兵衞
木本源吉

○委員長及副委員長選擧

○明治四十五年三月十四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長　伯爵　松平直之

副委員長　子爵　樋口誠康

會議

第一回　明治四十五年三月十四日

出席委員

委員長　伯爵　松平直之　　副委員長子爵　樋口誠康

委員　男爵　沖原光孚　　同　男爵　山内長人

同　男爵　外松孫太郎　　同　男爵　北大路實信

同　森田庄兵衛　　同　木本源吉

出席政府委員

陸軍次官　岡市之助

陸軍主計監　辻村楠造

陸軍省參事官　吉村八十三

陸軍一等主計正　廣瀨正德

開會　午前十時十五分

○委員長伯爵松平直之　開會ヲ宣告ス

（參照）

陸軍作業會計法中改正法律案

陸軍作業會計法中左ノ通改正ス

第二條第一項中「建物」ヲ「土地建物」ニ改ム

第三條第一項中「東京及大阪砲兵工廠ハ」ノ下ニ「俸給諸給旅費廳費」ヲ加ヘ「建物」ヲ「土地建物」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○委員長伯爵松平直之　本案ニ付政府委員ノ説明ヲ求ム

○政府委員岡市之助　大阪及東京兩砲兵工廠ノ作業會計ハ一種特別ノモノニ屬シ職員ノ俸給諸給出張旅費等ヲ軍事費ヨリ支辨シ又土地ノ如キモ一般會計ノモノヲ借用シツツアルモノニシテ千

住製絨所ノ如キ普通ノ特別會計トハ異レリ斯ノ如ク特別會計ノ不統一ナルハ陸軍部内ニ於テ不便トスル所ニシテ又工廠内ニ於テモ軍事費支辨ノモノト作業費支辨ノモノトニ岐レ其ノ結果之ヲ實施スル上ニ於テモ不便不利ヲ感スルコト尠カラス故ニ此ノ改正案ヲ提出シタル所以ナリ若本案カ協賛ヲ得ルトキハ明治四十六年度ヨリ之ヲ實施スル豫定ナリ今其ノ結果ニ付テ述フレハ全般ノ軍事費用ニ於テハ增減ナキモ一般會計ニ屬スル軍事費中ノ俸給廳費旅費等ノ六十六萬圓餘ヲ特別會計ニ組換フルコトトナリ隨テ幾分カ兵器ノ價格ヲ高カラシメサルヘカラサルコトトナル

○委員子爵樋口誠康　一般會計ニ屬スル軍事費六十六萬圓餘ヲ特別會計ニ組換フルトキハ一般會計ハ其ノ額タケ取除カルルコトトナルヘキカ

○政府委員岡市之助　然リ

○委員子爵樋口誠康　陸軍ノ作業會計ニ於テハ海軍ニ於ケルカ如ク此等ノ費用ヲ一般會計ニ屬セシメ特別會計ニ組換ヘスシテ實行セハ不可ナリヤ

○政府委員辻村楠造　海軍ノ兵器工廠ニ於テハ民間ノ要求ニハ應セサルカ故ニ特別會計ト爲スヲ得サルヘキモ砲兵工廠ニテハ一般民間ノ需要ニ應スルコトヲ得ヘキモノニシテ稍其ノ趣ヲ異ニ

ス而シテ砲兵工廠ハ其ノ初ニ方リテハ兵器ヲ製造スルコト頗僅少ニシテ然カモ一方ニハ外國ヨリ半製品ヲ輸入セサルヘカラサリシ結果一般會計ヨリ補給ヲ受ケタル次第ナリ然ルニ近來ハ軍隊モ增加シ又外國ヨリ半製品ヲ仰クコトモ大ニ減少シ今日ニテハ唯素材ヲ外國ヨリ輸入シ内地ニテ之ヲ完成スルヲ得ルニ至リ外國ニ支出スル金額モ隨テ減少シ最早作業會計ヲ以テ十分ニ經營スルヲ得ルニ至リタルカ故ニ今其ノ一般會計ノ部ニ屬セル六十六萬圓餘ヲ特別會計ニ組換ヘ以テ作業會計ノ統一ヲ計リ之カ爲ニ生スル種種ノ不便不利ヲ除カムコトヲ企圖ス

○委員子爵樋口誠康　本案通過セハ明治四十六年度ヨリ一般會計ノ軍事費ニ屬スル六十六萬圓餘ハ之ヲ特別會計豫算ニ計上セラルルコトトナラム

○政府委員辻村楠造　然リ此ノ法律案カ通過スルトキハ明治四十六年度ヨリ六十六萬圓餘ノ費用ハ之ヲ一般會計ヨリ移シテ特別會計ニ入ルルコトトナル故ニ其ノ割合ニ應シテ兵器ノ價格ヲ昂カラシムルモ是レ形式上ノ事ニ過キスシテ事實上軍事ノ費用ヲ增加セス

○委員子爵樋口誠康　此ノ改正案ハ今年漸ク提出セラレタルカ今少シク早ク提出セラレサリシ理由如何

○政府委員辻村楠造　特別ノ理由アリシニアラサルモ陸軍作業會計法ハ明治二十三年ニ制定セラ

レシモノニシテ當時兵器ノ製造モ少ク外國ヨリ半製品ヲ輸入セルノ結果費用モ隨分多額ヲ要シ獨立經營困難ナリシ爲此等諸種ノ費用ヲ一般會計ヨリ支出シタル次第ナリ而シテ明治三十五年ニ同法ヲ改正シテ建物ヲ包含セシメタルモ尚土地ヲ加フルニ至ラス其ノ儘トナリ居リシモ土地ヲモ之ニ包含セシムルノ必要アルカ故ニ今次漸ク本案ヲ提出スルニ至リタル次第ニシテ敢テ深キ事情アルニアラス

○委員子爵樋口誠康　此ノ法律案ニ依レハ建物ノ外ニ土地ヲ加ヘムトスルカ其ノ土地ノ現今ノ價格ハ如何ナルカ

○政府委員辻村楠造　東京砲兵工廠ニテハ四十四萬七千六百八十一坪大阪砲兵工廠ニテハ五十六萬九千四百八坪ナルモ其ノ價格ハ未調査セス

○委員男爵外松孫太郎　職員ノ俸給諸給出張旅費等ヲ一般會計ノ軍事費ヨリ東京及大阪兩砲兵工廠ノ特別會計ニ移ストキハ兵器價格ノ騰貴凡何程ナルカ

○政府委員辻村楠造　六十六萬圓餘ヲ一般會計ヨリ特別會計ニ支出セサルヘカラサルカ故ニ之ヲ割宛ツルトキハ約一割三分四厘ノ騰貴トナルナリ

○委員子爵樋口誠康　砲兵工廠ノ敷地ニ要スル土地ヲ擴ムルニハ從來如何ナル手段ヲ取リシヤ尚將來ハ如何ナル方法ニ依ルヘキヤ

○政府委員辻村楠造　土地ヲ買入ルルカ如キハ砲兵工廠ノ擴張ニ屬スルコトナレハ其ノ費用ハ一般會計ヨリ支辨シタリ將來モ亦然カスルノ外ナシ

○委員森田庄兵衞　砲兵工廠ノ土地トハ小石川ニ在ル砲兵工廠ノモノノミニ限ラサルヤ

○政府委員辻村楠造　然リ大阪ニモ在リ又東京砲兵工廠ニ付テ謂フトキハ小石川ノ外ニ目黑ニモ板橋ニモ在リ其ノ外諸所ニ散在ス此等ノ總テヲ合シタルモノヲ砲兵工廠ノ土地トス

○委員森田庄兵衞　小石川ノ砲兵工廠ノ土地ハ凡何坪アリヤ

○政府委員辻村楠造　本廠十二萬六千九百六十三坪物揚場二千七百五十坪其ノ外飛地二百九十八坪アリ

○委員森田庄兵衞　後樂園ヲモ其ノ中ニ包含スルヤ若包含スルトセハ其ノ坪數如何

○政府委員辻村楠造　後樂園ヲモ東京砲兵工廠ノ土地ノ中ニ包含ス然レトモ其ノ坪數ハ調査セス

○委員子爵樋口誠康　元來土地ノ價格ヲ計上スルニハ如何ナル方法ニ依リテ爲スヤ

○政府委員辻村楠造　時價ニ依リテ之ヲ確定ス而シテ時價ヲ見出スニハ其ノ近鄰地ニ相場アルトキハ其ノ相場ニ依リ相場ナキトキハ五人以上ノ鑑定人ヲ選定シ評價ヲ爲サシム

○委員男爵山内長人　一般會計ヨリ俸給諸給等六十六萬圓餘ヲ特別會計ヘ組換フルノ結果陸軍省ヨリ兵器ヲ砲兵工廠ニ注文スル場合ニハ從來ニ比シテ高價ニ買入レサルヘカラサルコトトナリ從テ幾分カ其ノ經費ヲ增加スルコトトナラサルカ

○政府委員辻村楠造　兵器ヲ幾分高價ニテ買入レサルヘカラサルコトトナルノ結果陸軍省ノ經費ハ增加スルモ從來陸軍省ヨリ支出シタル六十六萬圓餘ハ特別會計ニ於テ支出スルコトトナルカ故ニ實質上ニ於ケル軍事費用ハ敢テ增減セス

○委員男爵沖原光孚　本案ハ要スルニ兩砲兵工廠ノ會計ヲシテ千住製絨所ノ會計ト同様ナラシムルニ在ルヘシ

○政府委員辻村楠造　然リ

○委員長伯爵松平直之　質問盡キタルヲ認メ本案ヲ討議ニ付スヘキ旨ヲ告ク

○委員長伯爵松平直之　別ニ意見ヲ述フル者ナキヲ以テ本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長伯爵松平直之　本案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會　午前十時四十八分

（附記）同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

陸軍作業會計法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月十四日

右特別委員長
伯爵　松平直之

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長　伯爵　松平直之印

副委員長　子爵　樋口誠康印

產牛馬組合法改正法律案特別委員會

委員選擧

○明治四十五年三月十二日議長ノ指名ヲ以テ產牛馬組合法改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵　清閑寺經房
子爵　伏原宣足
子爵　伊集院兼知
男爵　和田彥次郎
男爵　竹腰正己
男爵　青山元
男爵　坪井九八郎
藤田四郎
土居通博

委員長及副委員長選擧

○明治四十五年三月十八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長　藤田四郎

副委員長　男爵　青山元

會議

第一回　明治四十五年三月十八日

出席委員

委員長　藤田四郎　　副委員長男爵　青山元

委員　伯爵　清閑寺經房　　同　子爵　伏原宣足

同　子爵　伊集院兼知　　同　和田彥次郎

同　男爵　竹腰正己　　同　男爵　坪井九八郎

同　土居通博

出席政府委員

馬政長官　淺川敏靖

陸軍省參事官　吉村八十三

農商務省農務局長　下岡忠治

開會　午前十一時三十二分

○委員長藤田四郎　開會ヲ宣告ス

（參照）

産牛馬組合法案

第一條　牛又ハ馬ノ生産ニ從事スル者ハ本法ニ依リ組合ヲ設置スルコトヲ得

組合ノ地區ハ郡市以上ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第二條　組合ハ牛馬ノ改良及組合員ノ共同ノ利益ヲ圖ルヲ以テ目的トス

監督官廳ハ必要ト認ムルトキハ組合ヲシテ種牛馬ノ供給、牛馬ノ系統登錄、牛馬ノ共濟保險ヲ爲サシメ又ハ糶場ヲ設ケシムルコトヲ得

第三條　組合ヲ設置セムトスルトキハ其ノ地區内ニ於テ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ牛ノ生産ニ從事スル者及馬ノ生産ニ從事スル者相合シテ組合ヲ設置セムトスルトキハ各別ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ

要ス

第四條　組合設置ノ地區內ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ

第五條　組合ノ經費ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員之ヲ負擔ス

組合經費徵收ノ方法ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　組合ニ於テ負債ヲ起サムトスルトキハ起債ノ方法、利息ノ定率、償還ノ方法ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第七條　組合ハ相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

組合聯合會ノ經費ハ聯合各組合ノ負擔トス

第八條　主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ地方又ハ地區ヲ指定シ組合又ハ組合聯合會ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第九條　組合及組合聯合會ノ普及發達及聯絡ヲ圖ル目的ヲ以テ主務大臣ノ認可ヲ經テ組合中央會ヲ設クルコトヲ得

組合中央會ハ組合及組合聯合會ヲ以テ會員トシ其ノ經費ハ會員ノ負擔トス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ本項以外ノ者ト雖會員ト爲ルコトヲ得

第十條　組合、組合聯合會及組合中央會ハ法人トシ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　監督官廳ハ何時ニテモ組合、組合聯合會及組合中央會ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ事業ニ付認可ヲ受ケシメ事業及財產ノ狀況ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條　組合、組合聯合會又ハ組合中央會ノ決議若ハ役員ノ行爲ニシテ法令又ハ監督官廳ノ命令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ監督官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　決議ノ取消

二　役員ノ解職

三　組合、組合聯合會又ハ組合中央會ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止

第十三條　組合及組合聯合會ハ地方長官ニ組合中央會ハ主務大臣ニ各其ノ事務ニ關シ建議スルコトヲ得

又諮問アルトキハ答申スヘシ

第十四條　本法ニ規定スルモノノ外組合、組合聯合會又ハ組合中央會ノ設立、管理、分合、解

散、精算其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

附　則

第十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治三十三年法律第二十號産牛馬組合法ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十七條 前條第二項ノ産牛馬組合法ニ依リ設ケタル産牛馬組合又ハ産牛馬組合聯合會ハ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

（附記） 本委員會議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長藤田四郎 散會ヲ命ス

散會 午前十一時五十六分

（附記） 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

産牛馬組合法改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月十八日

右特別委員長　藤田四郎

貴族長議長公爵徳川家達殿

委員長　藤田四郎印

副委員長　男爵　青山元印

水道條例中改正法律案特別委員會

委員選擧

○明治四十五年三月十二日議長ノ指名ヲ以テ水道條例中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

侯爵　花山院親家
伯爵　清棲家教
子爵　野宮定穀
男爵　石黒忠悳
男爵　尙　　順
　　　關　清英
　　　古荘嘉門
　　　岩村兼善
　　　鎌田勝太郎

委員長及副委員長選擧

○明治四十五年三月十五日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長　侯爵　花山院親家

副委員長　伯爵　清棲家教

會議

第一回　明治四十五年三月十五日

出席委員

委員長　侯爵　花山院親家　　副委員長伯爵　清棲家教

委員　子爵　野宮定轂　　同　男爵　石黑忠悳

同　關清英　　同　古莊嘉門

同　鎌田勝太郎

出席政府委員

内務省土木局長兼内務省地方局長　水野錬太郎

内務省衛生局長　小橋一太

開會　午前十時三十一分

○委員長侯爵花山院親家　開會ヲ宣告ス

（參照）

水道條例中改正法律案

水道條例中左ノ通改正ス

第二條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但當該市町村ニ於テ其資力ニ堪ヘサルトキハ市町村以外ノ企業者ニ水道ノ布設ヲ許可スルコトアルヘシ

同條第二項ヲ削ル

第三條第二項中「、元資償却ノ方法」ヲ削ル

第十七條　市町村ニ非サル企業者ノ布設シタル水道ニシテ許可年限ノ滿了シタル後ハ關係市町村ハ水道布設ニ要シタル費用ヲ支拂ヒ其水道及水道經營ニ必要ナル土地物件ヲ買收スルコトヲ得但水道及水道經營ニ必要ナル土地物件ニシテ布設當時ニ比シ價格ヲ減損シタルモノアルトキハ水道布設ニ要シタル費用ヨリ之ヲ控除ス

前項費用ノ範圍及金額ニ關シ當該市町村ト企業者トノ間ニ爭アルトキハ地方長官之ヲ決定ス

其決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十八條　市町村ニ非サル企業者ノ布設シタル水道ニシテ關係市町村ニ於テ必要ト認ムルトキハ許可年限ノ滿了前ト雖之ヲ買收スルコトヲ得

前項ノ買收價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十九條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ市町村ニ非サル企業者ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ時限內ニ履行シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣費ヲ以テ之ヲ施行シ其費用ヲ市町村又ハ市町村ニ非サル企業者ヨリ之ヲ追徵スルコトヲ得

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但第八條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　市町村ニ非サル企業者ニシテ前條ノ費用ヲ指定ノ期限內ニ納付セサルトキハ國稅徵收ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十一條　內務大臣ハ必要ト認ムルトキハ水道ノ布設ヲ市町村ニ命スルコトヲ得

○委員侯爵花山院親家　本案ニ對スル政府委員ノ意見ヲ求ム

○政府委員水野錬太郎　政府ノ本案ニ同意シタル理由ヲ述フヘシ抑水道ハ市町村ニアラサレハ之ヲ經營スル能ハサリシカ斯クテハ市町村ニ於テ水道設備ノ急要ナルヲ認ムル場合ト雖他ノ事業ノ爲負擔スル所多クシテ到底其ノ獨力ヲ以テ之ヲ布設スル能ハス勢ヒ國家ノ補助ヲ待タムトス然レトモ國力ニハ又自ラ限度アリテ悉ク補助ヲ與フル能ハス從テ町村ニ在リテハ勿論市ニ於テモ之カ設備ヲ爲ス能ハスシテ不便多カリシヲ以テ昨年ノ議會ニ於テ公共團體其ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ於テ一私人ニモ之ヲ許可スルコトトスルノ法律案衆議院ニ發議セラレシカハ政府ハ之ニ同意ヲ表シタリ而シテ同法ニ依レハ一私人ニ水道布設ヲ許可スル場合ニ付テハ比較的嚴格ナル制限ヲ付シタリ即第一土地ヲ開發スル爲ナルコト第二元資償却ノ範圍內ニ於テ之ヲ許可スルコト第三許可期限滿了ノ場合ニハ無償ニテ市町村ニ引渡スヘキモノタルコト是ナリ即第一ノ制限ハ例ヘハ寒村僻地ト雖將來工業地タルヘシトカ又ハ開港地タルヘシト豫想セラルルトキ此ノ土地ヲ開發スルニ必要ナル場合ニ限リ之ヲ一私人ニ許可スルモノトシ第二ノ制限ハ布設費及年五分ノ利子ヲ加算シタル元資ノ償却ノ範圍內ニ於テ之ヲ私人ニ許可スルモノトシ第三ノ制限ハ假令私人又ハ會社ニ於テ利益ヲ見ル能ハサルトキト雖許可年限滿了スルトキハ水道及水道經營

ニ必要ナル土地物件ヲ併セテ町村ニ引渡スヘキモノトシタルナリ然ルニ斯カル制限ハ水道普及ノ趣旨ヲ以テ私人ノ布設ヲ許スコトトセル立法ノ豫想ニ反シ經營困難ナルノ故ヲ以テ本法ニ依リ水道布設ノ計畫ヲ爲シタルモノナク唯大森羽田等ニ於テ出願セルモノアルニ過キサルナリ而シテ之トテモ水道ヲ以テ主タル目的トセルモノニアラス地價ノ昂騰ヲ計リ土地ノ繁榮ヲ企テタルニ過キス翻テ水道布設ノ必要ヲ認ムル地ハ全國ニ夥シク德島松江高知ノ如キ水道ヲ設ケムトスト雖國庫ヨリ補助ヲ與ヘ得ヘキ餘裕アリヤ否ヤ疑問ナリ假令之ヲ與ヘ得ルモノトスルモ其ノ範圍ハ尙市ノミニ止リ町村ニ及ホス能ハサルヘシ故ニ福山町別府町等ノ如ク水道布設ノ必要ヲ認ムルト雖獨立ヲ以テ之ヲ經營スル能ハス又國家ノ補助ヲ得ルコト能ハサル町村ニ於テ水道ノ設備ヲ爲サムト欲セハ或條件ノ下ニ私設ヲ許可セサルヘカラサルナリ然ルニ現行法規ノ定ムル所ノ條件ハ遺憾ナカラ非常ニ窮屈ニシテ到底之ニ依リテ布設ノ計畫ヲ爲スモノナク又近キ將來ニ於テモ之ヲ經營セムトスルモノナカルヘシ是レ豈町村ノ爲最悲シムヘキコトニアラスヤ本案ハ此等ノ制限ヲ緩和シ以テ水道ノ普及ニ便セムトスルニ在リ而シテ許可期限滿了ノトキ市町村ハ水道布設ニ要シタル費用ヲ支拂ヒテ之ヲ買戻スカ如キハ最主要ナル點ノ一ナリ本案ノ規定ヲ施行ノ結果弊害ヲ伴フ如キコトアリテハ詮ナシト雖政府ハ斯ク信セサルナリ種種研究ノ結果今日ニ於テハ此ノ改正ヲ必要ナリト認メ政府ハ之ニ同意セルモノナリ

○委員鎌田勝太郎　一私人ニ水道經營ヲ許可スルヲ得ルノ道ヲ開クモ利益ヲ擧クル能ハサレハ之ヲ計畫スル者アラサルヘシ外國ニ於テ水道經營者ノ受クル利廻如何

○政府委員小橋一太　日本ニ於テハ個人又ハ會社ニシテ該事業ヲ行フモノアラサルヲ以テ資本ニ對シテ幾何ノ利廻ヲ見ルヘキカハ正確ニ述ヘ難シ東京市橫濱市ノ水道ノ如キハ需用者普及セルヲ以テ相當ノ利益アリ就中東京ノ如キハ舊水道ヲ利用シタルモノニシテ建設費少ク從テ七朱若ハ八朱ノ利益ヲ見ツツアリト謂フモ要スルニ從來市町村ニ於テハ特別會計ヲ認メサルヲ以テ正確ニ此等ノ點ヲ知ルハ困難ナリ又外國ノ例ニ至リテハ今其ノ材料ヲ有セスト雖伯林ノ水道ノ如キハ其ノ建設費ニ對シ減損補塡ヲ爲スモ尙相當ノ利益アリト謂フ

○委員鎌田勝太郎　改正案ハ市町村ノ力ヲ以テ水道ヲ布設シ經營スル能ハサル場合ニ一私人ニ之ヲ許可スルモノトス然ルニ利益多キトキハ市町村ニテ之ヲ經營スルヲ得ヘク何ヲ苦ムテカ一私人ニ依賴セムヤ之ニ反シテ利益ナキトキハ一私人ト雖之ヲ經營スル理ナキニアラスヤ

○政府委員小橋一太　然リ然レトモ市町村ニハ水道布設ノ必要ヲ認ムルコト切ナルモノアリ又一日モ早ク良水ヲ此等ノ市町村ニ供給スルハ政府ノ望ム所ナリ然ルニ市町村ニハ獨力經營スル能

ハサルモノアリ資金調達ノ困難ナルモノアリ例ヘハ舊債ノ尚存在スル場合ニ資金調達ヲ認可スル能ハサルカ如シ而シテ國ノ低利資金ニモ其ノ額ニ限度アリ從テ一時之ヲ一私人ニ許可シ市町村ニシテ舊債ヲ返却シ自己ノ資力ヲ囘復シタルトキハ自由ニ之ヲ買戻スコトヲ得ルノ利便アリ

○委員伯爵清棲家教　現行法及本案ハ共ニ私人ニモ國庫ノ補助ヲ與フル趣意ナルヤ

○政府委員小橋一太　本問ハ衆議院ニ於テモ發セラレタルモノニシテ本法ノ趣意ハ水道ノ速成ヲ望ムニ外ナラサルヲ以テ政府ニ於テ補助ヲ與ヘ得ル場合ハ無論公共團體ノ經營ニ係ルモノタルコトヲ希望ス水道ハ公營主義ヲ原則トスルヲ以テ私人ニ對シテハ補助ヲ與フル能ハス

○委員伯爵清棲家教　私人ノ企業者ハ市町村ノ買收ヲ拒否スルコトヲ得ルヤ

○政府委員小橋一太　之ヲ拒否スル能ハス

○委員鎌田勝太郎　給水料ヲ定ムルニハ政府ノ許可ヲ要スルナルヘシ是レ蓋個人經營方針ノ基本トナルヘキモノナレハナリ政府ハ何ヲ標準トシテ之ヲ決定スルヤ

○政府委員小橋一太　各地ノ狀況ニ依リ同一ニ論スルヲ得ス人口ノ多少、金利ノ高低及其ノ他ノ事情ヲ考察シ成ルヘク低率ナラシメムトス其ノ暴利ヲ貪ルモノノ如キハ無論之ヲ許可スルヲ得ス且給水料ハ一旦內務大臣ノ許可命令書ニ依リテ許可セラレシモノト雖將來低減シ得ヘシト認メタルモノハ更ニ之ヲ引下ケシメムト欲ス

○委員鎌田勝太郎　昨年本法改正後ニ於テ水道ノ布設ヲ出願セシモノアリヤ又本改正案實施後ニ於テ經營希望者アル見込ナルヤ

○政府委員小橋一太　昨年ノ暮大森、羽田、蒲田、入新井ノ水道布設ニ付出願アリタリ該計畫ハ水道其ノモノヨリモ土地開發ヲ主タル目的トナスモノノ如シ又廣島縣福山町ハ水質不良ナルヲ以テ水道布設ノ必要ヲ感スルモ資力乏シキヲ以テ適當ナル方法ヲ考慮シツツアル旨ヲ耳ニセリ

○委員鎌田勝太郎　神戶ニテハ外國船ニ水ヲ供給スルニ其ノ價非常ニ低廉ナリト謂フ給水料ニ付テハ外國ノ例ト比較調査セシコトアリヤ

○政府委員小橋一太　外國ノ例ハ調査セサルモ神戶ニテハ長崎ニ於ケルト略同一ニシテ特ニ低廉ナリト謂フヘカラス

○委員鎌田勝太郎　現在給水料ノ最高額及最低額ヲ問フ

○政府委員小橋一太　調査書類ヲ携帶セス必要ナラハ表ヲ以テ示スヘシ

○委員男爵石黑忠悳　第二條但書ヲ改正スル理由如何

○政府委員小橋一太　現行法第二條但書ノ土地開發ノ爲ナルコト等ノ制限ハ實際ニ不便ナルヲ以テ之ヲ削除シ單ニ市町村ノ資力足ラサルトキニ私人ニ此ノ許可ヲ與ヘムトスルモノナリ

○委員男爵石黑忠悳　然ラハ改正ノ要旨ハ必シモ土地開發ノ爲ニアラスシテ住民ニ良水ヲ供給セムトノ精神ナリヤ

○政府委員小橋一太　然リ

○委員鎌田勝太郎　茨城縣水戸市ノ水道ニ補助ヲ與ヘラレサルハ如何又各市ニ依リテ補助額ニ多少ノ差アル理由ヲ問フ

○政府委員小橋一太　滋賀縣大津、宮城縣古川等モ水戸市ト同樣ナリ水戸ニハ本條例施行前ニ既ニ存在セシモノヲ改造シタルニ過キス其ノ他ハ設備容易ナルモノニ過キサルヲ以テナリ又補助額ハ從來工事費ノ三分ノ一ナリシカ近來ハ四分ノ一トナセリ

○委員伯爵淸棲家敎　從來町村ニ限リテ或條件ノ下ニ地方團體以外ノ企業者ノ經營ヲ許可スルコトトセルニ獨市ヲ除外シタル理由如何

○政府委員小橋一太　土地開發ヲ目的トセルヲ以テ市ハ其ノ必要ナキモノトシテ之ヲ除外セリ然レトモ市ト雖負擔ニ堪ヘサル場合アルヲ以テ改正案ニハ之ヲ除外セス

○委員關淸英　政府委員ノ說明ニ依レハ政府カ本案ニ同意セシハ給水ノ普及ヲ計ラムカ爲ナリト謂フ而シテ此ノ目的ヲ達スル爲水道ノ經營ハ町村ニ限リテ之ヲ許可スルノ主義ヲ捨テ一私人ニモ之ヲ許可スル場合ヲ認メムトス然ラハ町村ニテモ其ノ負擔ニ堪ヘサル如キ土地ニ於テ一私人ノ之カ布設經營ヲ希望スルモノアルヘキカ疑ナキヲ得ス果シテ然ラハ本法ハ其ノ目的ヲ達スルヲ得ヘキヤ否ヤ疑問ナリト信ス知ラス從來ノ大原則ヲ破壞シテ迄モ本案ノ改正ヲ加フルノ必要何レニ在リヤ

○政府委員水野錬太郎　水道公營ノ原則ヲ改メタルハ昨年議會ヲ通過シタル法律案ナリ本案ハ昨年改正セル法律ニ規定セル制限ヲ以テシテハ水道私設ニ困難ナルヲ以テ之カ條件ヲ緩和セムトスルモノナリ而シテ本案ハ私人タル企業者カ相當ノ利益ヲ收ムルコトヲ認ムルモノナレハ布設經營ヲ希望スル私人モ出ツルナラムト考フ

○委員鎌田勝太郎　個人ニテ水道ヲ經營スル場合ト雖尙第十五條等ノ設備ハ義務トシテ設クヘキモノナリヤ

○政府委員小橋一太　第十六條ノ無料給水ハ勿論第十五條ノ共用給水器ノ設備モ之ヲ爲ササルヘカラス

〇委員男爵石黒忠悳　東京市ニ於テ嘗テ電車ニ關シテ惡例アリシカ如ク水道許可期限滿了ノ際私人ヨリ之ヲ買收スルニ付弊害ノ生スル虞アラサルカ政府ノ意見如何

〇政府委員水野錬太郎　水道ノ許可期限滿了ノ際無償ニテ之ヲ市町村ニ引渡スヘキモノトスルトキハ私設水道ヲ企ツル者ナキニ至ルヘキヲ以テ相當費用ヲ市町村ヨリ企業者ニ交付スルコトトセルモノニシテ政府ハ此ノ間ニ弊害ヲ生セサラシムル爲十分ナル監督ヲ爲サムト欲ス

〇委員男爵石黒忠悳　其ノ監督ノ程度ハ東京市ニ於ケル電車監督ノ程度ト略同一ト見テ差支ナキヤ

〇政府委員水野錬太郎　電車ニ關スルモノハ一例ナリ要スルニ市町村ノ不利益トナラサルヤウ十分注意スヘシ

〇政府委員小橋一太　電車買收ノ場合ト異リ本法第十七條ノ規定アレハ弊害少カルヘシ

〇委員鎌田勝太郎　三重縣諸戸氏ノ經營ニ係ル水道ハ之ヲ桑名町ニ引渡スヘキモノナルヤ

〇政府委員小橋一太　諸戸氏自用ノ爲山地ヨリ水ヲ引キタルニ其ノ質良好ナルヲ以テ水量ヲ增加シ廣ク公衆ニ分與スルモノナリ該工事ハ現在ニ於テハ水道ノ形式ヲ完備シタルモノニアラサルヲ以テ水道條例ニ遵由セサルモノナリ

〇委員男爵石黒忠悳　水道許可年限決定ノ標準如何

〇政府委員水野錬太郎　一定ノ標準ナシ實際ノ狀況ニ依リ決定ス

〇委員長侯爵花山院親家　散會ヲ命ス

散會　午前十一時五十分

第二回　明治四十五年三月二十三日

出席委員

委員長　侯爵　花山院親家　副委員長伯爵　清棲家敎

委員　子爵　野宮定穀　同　關清英

同　古莊嘉門

出席委員外議員

伯爵　川村鐵太郎

出席政府委員

內務省土木局長兼內務省地方局長　水野錬太郎

內務省衛生局長　小橋一太

開會　午後二時十五分

○委員長侯爵花山院親家　開會ヲ宣告ス

○委員關清英　政府委員ニ問フ水道敷設ニ關シ町村ノ資力之ニ堪フル所ナリヤ否ヲ知ル方法如何

○政府委員水野錬太郎　町村ノ負擔力ヲ知ルニハ戸別割、地租割附加税ノ額其ノ他町村ノ事業等ヲ參照ス

○委員關清英　政府カ本案ニ同意スルニ付テハ地方官ノ意見ヲ徵シタルコトアリヤ

○政府委員水野錬太郎　親シク地方官ノ意見ヲ問フ暇ナカリシト雖地方官及地方人民ノ均シク之カ必要ヲ認メツツアルハ水道布設ニ關シ國庫補助ノ申請頻頻タルヲ見テモ知ルヲ得ヘシ

○委員關清英　本案ハ極メテ簡單ナルモノノ如キモ深ク其ノ影響スル所ヲ考フルトキハ容易ニ可否ヲ決スヘキニアラス政府ノ本案ニ同意シタル理由ハ給水ノ普及ヲ計ル爲必要ノ改正ナリト謂フニ在ルモ本員等ノ考フル所ニ依レハ町村ニシテ自ラ進テ水道ノ敷設ヲ爲ス資力ナキモノハ多クハ寒村僻地ナリ斯カル、土地ニ營利ヲ目的トスル個人又ハ會社カ果シテ水道ヲ敷設スルニ至ルヘキカ疑問ナリ若又寒村僻地ニアラストセハ極度ノ負擔ヲ課セラレタル町村ナルヘキヲ以テ給水料ノ支拂ニモ窮スルナルヘシ果シテ然ラハ好奇者若ハ何等カ野心ヲ包藏シテ自ラ爲ニスル者

ニアラサレハ之カ布設ヲ畫策スルコトナカラム故ニ本案ニ依リテハ水道普及ノ目的ヲ達スルコトハ困難ニアラサルカ或ハ奇拔ナル議論ヲ爲ス者アリ曰ク本案實施ノ結果ハ給水權ヲ個人又ハ會社ニ獨占セラルルヲ以テ町村ハ自ラ進テ布設ヲ爲スヘク從テ公營主義ノ原則ニ合シ又水道普及ノ目的ヲ達シ得ルカ故ニ一擧兩得ノ策ナリト然レトモ町村費ハ年年其ノ額ヲ增加シ今ヤ殆其ノ極ニ達セルニ强ヒテ斯カル事業ヲ計畫スルモノトセムカ地方經濟ニ惡影響ヲ及ホスコト大ナルヘシ故ニ若本問題ニ關シテ更ニ攷究ノ餘地アラハ兎モ角目下ノ狀況ニテハ本員ハ遺憾ナカラ本案ニ贊成スルヲ得ス政府ニ於テハ地方ノ事情ヲ考察シテ適當ナル方法ヲ案出セラレムコトヲ望ム

○政府委員水野錬太郎　關委員ノ憂フル所大ニ其ノ理由アリ地方殊ニ町村ノ經費例ヘハ敎育費衞生費ノ如キハ現時大ニ增加シツツアルヲ以テ地方經濟ノ膨脹ハ大ニ考量セサルヘカラス是レ地方官ノ大ニ意ヲ致ス所以ナリ然レトモ飜テ考フルニ水質惡シキカ爲ニ傳染病流行シ從テ地方費ノ增加ヲ來スノ例アルヲ以テ切ニ水道布設ノ急務ヲ感スト雖當該町村ニハ他ニ種種ノ事業ノアルアリ國又ハ縣ノ補助ヲ得ルニアラサレハ事實上自ラ之ヲ布設スル能ハス是ニ於テカ水道公營主義ニ反スト雖已ムヲ得ス私人ニモ之カ經營ヲ許可セサルヘカラス昨年貴衆兩議院ニ於テモ此

ノ點ヲ察セラレ水道條例中改正法律案ヲ通過セシメタリ而シテ昨年加ヘタル改正ニテハ尙實際ニ不便ナルヲ以テ本案ノ規定ニ從ヒ市町村ニシテ資力アルモノハ自ラ之ヲ經營セシメ資力無キモノハ先私人ニ之ヲ許可シ後當該市町村ヲシテ之ヲ買收セシムルハ最實際ニ適スルモノト信ス而シテ斯ノ如キハ外國ニモ其ノ例アリ又給水料ハ町村ノ收入トナリ傳染病ノ減少ハ間接ニ町村民ノ負擔ヲ輕減スルヲ以テ漸次水道ヲ用ウルモノ增加スヘキヲ信ス若夫布設ノ許可ヲ得タル私人ノ不正ニ對シテハ種種ノ點ヨリ之ヲ妨止シ得ヘキヲ以テ政府ハ本案ニ同意シタル次第ナリ若本案ニ不備ノ點アリトセハ修正セラルルモ亦可ナリ

○委員古莊嘉門　閣委員ノ憂フル所ハ理由アリト雖將來ノ事ヲ憂フルトキハ際限ナシ要ハ人ヲ得ルヤ否ニ在リ地方官民ノ注意宜シキヲ得ハ本案ハ適當ナルモノナルヘシ地方ニ水道事業ノ起ラサルハ必シモ資力無キニアラス面倒ナリトシテ抛棄スル場合アリ若私人ニ之カ布設ヲ許可スルモノトセハ競爭ヲ生スルヲ以テ地方民モ奮發スヘシ且資力ヲ借ルル方法ニモ種種アルヲ以テ單ニ將來ヲ憂フルノミニ止マラス進テ本案ニ贊成スルヲ可トス

○委員伯爵淸棲家教　政府委員ノ說明ニ依リ本案ハ必要ナルモノト認ム然レトモ尙熟考ノ餘地ヲ與ヘラレムコトヲ望ム

○委員子爵野宮定穀　淸棲伯爵ト同意見ナリ

○委員長侯爵花山院親家　委員外議員伯爵川村鐵太郎ヨリ本委員會ニ於テ政府委員ニ對シ質問ヲ爲スノ許可ヲ求メタルニ依リ之ヲ許可シテ異議ナキカヲ諮フ

異議ナシ

○委員外議員伯爵川村鐵太郎　政府委員ノ說明ニ依リ本案ハ適切ナルモノト思考ス外國ニ於テモ私人ニ水道ノ布設經營ヲ許可スルノ例アルカ如シ如何又私設會社ニ於テハ水道ノ經營ヲ爲スニ付テハ料金ノ決定ハ重要ナル關係ヲ有スルモノナリ法案ニハ此ノ點ニ關スル規定アリヤ

○政府委員小橋一太　調査書類ヲ携帶セサルヲ以テ精確ナル答辯ヲ爲スヲ得スト雖獨逸ニ於テハ市町村有ノ水道總數千三百三十二私設ノモノハ六十五アリ而シテ此ノ中私設ノモノヲ市町村ニ移セルモノアリ伯林ノ水道モ亦私設ノモノヲ買收セシモノニシテ「シャルロッテンベルヒ」ノモノ亦然リ英國ニテハ私設ノモノヲ原則トセシモ後公設トセルモノアリ「イングランド」ニ於ケル三百三ノ中二百六十八ハ私立ナリ又給水料ニ關シテハ布設ヲ許可スル場合ニ相當ニ之ヲ決定セムト欲ス

○委員外議員伯爵川村鐵太郎　伯林ノ水道ハ川水ヲ用ウルノミナラス河水ヲモ用ウト謂フ今指示

セラレタルモノノ中ニハ地下水ノモノヲ包含スルヤ

○政府委員小橋一太　調査書類ナキヲ以テ答辯ノ正確ヲ期シ難キモ伯林ノ水道ハ最初地下水ニ依リ後河水ヲ用ヰタルモ水質惡シキヲ以テ再地下水ヲ用ウルコトトシ今ヤ七分通リ迄ハ地下水ヲ用ウ又全部地下水ニ依ル所モアリ

○委員長侯爵花山院親家　散會ヲ命ス

散會　午後三時

（附記）本案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシテ議會ノ閉會トナレリ

委員長　侯爵　花山院親家印

副委員長　伯爵　清棲家教印

關稅定率法輸入稅表中改正法律案特別委員會

委員選擧

○明治四十五年三月十二日議長ノ指名ヲ以テ關稅定率法輸入稅表中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵　大原重朝

子爵　松平乘承

子爵　稻垣太祥

男爵　小早川四郎

男爵　藤大路親春

男爵　黒田長和

平山靖彥

田島竹之助

小野光景

○委員長及副委員長選擧

○明治四十五年三月十五日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 伯爵 大原重朝
副委員長 平山靖彦

會議

第一回 明治四十五年三月十五日

出席委員

委員長 伯爵 大原重朝　副委員長 平山靖彦
委員 子爵 松平乘承　同 子爵 稻垣太祥
同 男爵 小早川四郎　同 男爵 藤大路親春
同 男爵 黑田長和　同 小野光景

出席政府委員

大藏省關稅局長 櫻井鐵太郎
農商務省工務局長 岡實

出席主務官

大藏技師 矢部規矩治

開會 午前十一時十五分

○委員長伯爵大原重朝 開會ヲ宣告ス

（參照）

關稅定率法輸入稅表中改正法律案

關稅定率法輸入稅表中左ノ通改正ス

一七五 鹽化加里及硫酸加里
一 精製ノモノ 從價 二割
二 其ノ他 無稅

附則

本法ハ明治四十五年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

○委員伯爵大原重朝 本案ニ對スル政府ノ意見ハ本會議ニ於テ既ニ發表セラレタリト雖尚本委員會ニ於テ委シク說明セラレムコトヲ望ム

○政府委員櫻井鐵太郎 衆議院ノ提出ニ係ル本案ノ要旨ハ現行關稅定率法輸入稅表中鹽化加里ノ

稅率ヲ硫酸加里ノ稅率ト均シク精製ノモノハ從價二割トシ其ノ他ノモノハ無稅ト爲サムトスルニ在リ而シテ政府ハ本案ニ對シテハ以下述フル所ノ理由ニ依リ全然同意ヲ表スルモノナリ抑燐寸ハ我國重要輸出品ノ一ニシテ之カ原料タル「クロール」酸加里ハ鹽化加里ヲ原料トシテ製出スルモノナリ而シテ現行法ノ適用上鹽化加里ハ從價二割ノ稅ヲ課セラルルヲ以テ之ヲ輸入シテ內地ニ於テ「クロール」酸加里ノ製造ニ從事スル者ナク燐寸製造ノ原料タル「クロール」酸加里ハ一ニ之カ供給ヲ外國ニ仰カサルヲ得ス從テ燐寸製造業ノ發展上大ナル障害アリ而シテ本案ハ之カ障害ヲ除却スルノ利益アリ又鹽化加里ハ人造肥料ノ原料ニ供セラルルモノナリ而シテ現行法上鹽酸加里及肥料ハ共ニ無稅ナルヲ以テ之カ原料タル鹽化加里ヲモ無稅タラシムルハ彼是權衡ヲ得ルモノト認ム以上ノ理由ニ依リ鹽化加里ヲ無稅トスルモ關稅ノ收入ニ何等ノ影響ヲ及ホサザルノミナラス內地ノ產業上ニモ何等ノ打擊ヲ與フルコトナシ何トナレハ今日ニ至ル迄鹽化加里ノ輸入ヲ見サリシノミナラス我國ニ於テハ鹽化加里ノ製造ヲ專業ト爲ス者ナキヲ以テナリ唯沃度製造ノ副產物トシテ僅ニ年額千五百噸ノ鹽化加里ヲ生スルニ過キス以上說明スル如ク政府ハ本案ニ全然同意ヲ表スルモノナルカ故ニ本特別委員會ニ於テモ贊成ノ決議アラムコトヲ希望ス

○委員男爵小早川四郎　本案ニ依リ鹽化加里ト同一ノ取扱ヲ受クヘキ硫酸加里ナルモノハ如何ナル用途ニ充テラルルモノナルヤ

○政府委員櫻井鐵太郎　硫酸加里ハ粗製ノモノハ之ヲ肥料ノ原料ト爲シ精製ノモノハ藥品ト爲ス

○委員平山靖彥　硫酸加里及鹽化加里ノ精製ノモノハ共ニ燐寸製造ノ原料ト爲スコトヲ得サルヤ

○政府委員櫻井鐵太郎　燐寸製造ノ原料ト爲スコトヲ得ルハ二者同一ナリ

○委員子爵稻垣太祥　硫酸加里ハ內地ニテ之ヲ產出スルコトヲ得サルヤ

○政府委員櫻井鐵太郎　內地ニテハ之ヲ產出スルコトヲ得ス獨逸ヨリ輸入スルモノナリ

○委員男爵黑田長和　「クロール」酸加里ハ燐寸製造ノ原料ナルカ故ニ之ヲ無稅ト爲スモノナルヤ

○政府委員櫻井鐵太郎　「クロール」酸加里ハ現行法上無稅ナルカ故ニ本案ハ之カ原料タル鹽化加里ヲモ無稅ト爲シ以テ課稅ノ權衡ヲ維持セムトスルモノナリ

○委員子爵稻垣太祥　現行法ニ於テハ鹽化加里ハ其ノ精製ノモノタルト粗製ノモノタルトヲ問ハス共ニ從價二割ノ關稅ヲ課セラルルヤ

○政府委員櫻井鐵太郎　現行法ニテハ鹽化加里ハ精粗ノ別ナク悉ク從價二割ヲ課稅セラル

○委員男爵小早川四郎　鹽化加里ハ內地ニ於テハ之ヲ產出スルコトヲ得サルヤ

○政府委員櫻井鐵太郎　粗製ノ鹽化加里ハ重ニ獨逸方面ヨリ輸入ス日本ニ於テ此ノ種ノモノ皆無ナリトハ信セサルモ未地中ヨリ發掘セラルル方面アルヲ聞カス

○委員平山靖彥　鹽化加里ノ輸入ハ燐寸ノ製造ノ原料トシテ必要ナルカ

○政府委員櫻井鐵太郎　粗製鹽化加里ハ直接ニ燐寸製造ノ原料トナルモノニアラス燐寸ノ原料タル「クロール」酸加里製造ノ原料トナルモノナリ而シテ現今我國ニ於テハ一箇年僅ニ千五百噸ノ鹽化加里ヲ製造シ得ルモ斯ノ如キ少量ニテハ到底斯業ノ要求ニ應スルコト能ハス從テ之カ輸入ヲ外國ニ仰ク所以ナリ

○委員男爵藤大路親春　最近ニ於ケル「クロール」酸加里並鹽化加里ノ輸入高ハ如何

○政府委員櫻井鐵太郎　粗製ノ鹽化加里ハ今日ニ至ル迄之カ輸入ヲ見ス唯見本トシテ少量ノ輸入アリシニ過キス是レ從價二割ノ課稅ヲ負擔シテ之ヲ輸入シ以テ工業上ノ需要ニ充ツルモ收支相償ハサルニ由ル故ニ之カ輸入ヲ無稅ト爲スニ於テハ稍收支ノ權衡ヲ得ルニ至ルヘシ是レ本案提出ノ重ナル理由ナルヘシト信ス次ニ「クロール」酸加里ノ最近輸入高ハ左ノ如シ

「クロール」酸加里各年輸入額對照表

年次	數量	價額	平均百斤ノ價格
明治三十五年	四、八五七、二四一斤	七八五、三五六圓	一六、一七圓
同三十六年	四、九八八、一八五	七五〇、五八七	一五、〇五
同三十七年	五、三〇七、八二九	七八五、四七八	一四、八〇
同三十八年	四、四九三、四七〇	七六七、三一一	一七、〇八
同三十九年	五、八六五、九八〇	一、〇九八、六二〇	一八、七三
同四十年	六、一三三、七五八	一、一八七、〇七六	一九、三五
同四十一年	四、四三一、八六五	八六〇、一六九	一九、四一
同四十二年	七、四五八、九五八	一、四三七、三三五	一九、二七
同四十三年	六、〇九二、三四二	一、一八九、二〇五	一九、五二
同四十四年	六、三二六、九三七	一、二四〇、二〇〇	一九、六〇

○委員男爵黑田長和　鹽化加里ノ製造ヲ副業ト爲サスシテ專業ト爲サハ之ニ因リ多量ノ鹽化加里

ヲ產出スルコトヲ得ルニアラスヤ

○政府委員櫻井鐵太郎　鹽化加里ハ一定量ノ沃度ヲ採取スルニ當リ其ノ副產物トシテ產出セラルルニ過キサルカ故ニ既ニ一定量ノ沃度ヲ採取シタル以上進テ鹽化加里ノ產出ノミヲ目的トスルトキハ收支相償ハサルノミナラス主從相顚倒スルノ結果ヲ生シ且之カ爲ニ生シタル沃度ノ處分方法ニモ困難ヲ生スヘシ然ラハ之ヲ外國ニ輸出セハ可ナラムモ外國ニ於テハ沃度「トラスト」ナルモノノ存在スルアリ到底之ニ對抗スルコト能ハサルノミナラス我國ニ於ケル沃度製造業者ハ動モスレハ壓迫ヲ加ヘラレムトスルノ虞アリ故ニ外國ニ輸出スルハ絕對的ニ不可能ナリ既ニ輸出モ不可能ナリトセハ自然現狀ヲ維持スルノ外他ニ方策ナシト信ス

○委員男爵黑田長和　參考書ニ依レハ輸入鹽化加里ノ價ハ內地產出ノモノニ比シテ二倍强ノ高價ナリ故ニ內地ニ於テ之ヲ製造スル方法ヲ講スルノ必要ナキヤ

○政府委員岡實　沃度採取ノ目的ニ副ハスシテ單ニ鹽化加里ノ產出ノミヲ目的トスルトキハ之カ生產費ハ意外ニ巨額ニ上リ到底事業ヲ經營スルコト能ハス故ニ我國ニ於テハ鹽化加里ノ原料タルヘキ海藻類ハ豐富ナリト雖主トシテ鹽化加里ヲ採取スルハ寧收支相償ハサルノ狀態ニ在リ是レ當局ニ於テモ多年研究ヲ重ネタル結果ナリ

○委員平山靖彥　燐寸製造ノ原料タルヘキ粗製鹽化加里ハ如何ニシテ產出スルモノナルヤ

○政府委員櫻井鐵太郎　燐寸製造ノ原料トナルモノハ鹽化加里ニ非スシテ「クロール」酸加里ナリ而シテ鹽化加里ヨリ「クロール」酸加里ヲ產出スルノ方法ハ鹽化加里ヲ水ニ溶解シ之ニ電氣ヲ通シ化學的作用ニ依リ之ヲ製造ス

○委員平山靖彥　鹽化加里ノ輸入ヲ無稅トスルトキハ「クロール」鹽加里ハ日本ニ於テ之ヲ製造スルコトヲ得ルヤ

○政府委員櫻井鐵太郎　然リ

○委員子爵松平乘承　鹽化加里ノ輸入ニ關シテハ精製ノモノト粗製ノモノトニ依リ其ノ取扱ヲ區別スヘキモノナリト信ス如何

○政府委員櫻井鐵太郎　鹽化加里ハ之ヲ二種類ニ別チ一ヲ精製ノモノトシ之ニ從價二割ノ稅ヲ課シ他ヲ「其ノ他ノモノト」トシ之ヲ無稅トス而シテ粗製鹽化加里ハ法文中「其ノ他ノモノ」ニ包含セシム

○委員男爵藤大路親春　將來內地ニ於テ製造セムトスル「クロール」酸加里ハ其ノ品質ニ於テ輸入品ニ劣ルノ虞ナキヤ

○政府委員櫻井鐵太郎　此ノ法律制定ノ上將來内地ニ於テ當業者ノ製造セムトスル「クロール」酸加里ト外國輸入品トノ品質上ノ優劣如何ニ付テハ今俄ニ確言スルヲ得スト雖本員ノ信スル所ニ依レハ此等ノ製造ハ一ニ科學的研究ノ結果ニ基クモノナルヲ以テ兩者ノ間ニ於テ敢テ品質上ニ優劣ヲ見ルモノニアラスト信ス唯本員ノ懸念スル所ハ内地ニ於テハ到底外國ニ於ケルカ如キ大規模ノ製造方法ニ依ルコト能ハサル事情アルヲ以テ生産費ニ於テ比較的多額ヲ要セスヤノ點ニ在リ

○委員子爵稻垣太祥　鹽化加里ヲ以テ「クロール」酸加里ヲ製造スル方法ニ付一應主任技師ヨリ說明アラムコトヲ望ム

○政府委員櫻井鐵太郎　稻垣子爵ノ質問ニ對シ主務官大藏技師矢部規矩治ノ說明ヲ許可セラレムコトヲ望ム

○委員長伯爵大原重朝　主務官矢部規矩治ノ說明ヲ許可シテ異議ナキカヲ諮フ

異議ナシ

○主務官矢部規矩治　鹽化加里ヲ水ニ溶解シ其ノ溶液ニ電氣ヲ通スルトキハ茲ニ一種ノ化學的作用ヲ起シ水素ヲ分離シ酸素ハ溶液中ノ鹽素ト化合シ鹽酸加里即「クロール」酸加里ナル一種ノ結晶體ヲ生ス此ノ生成品ニ對シテ一種ノ精製方法ヲ施シ茲ニ初メテ純粹ナル鹽酸加里ヲ採取スルコトヲ得ルモノナリ其ノ内國品ト外國品トノ優劣ノ如キハ毫モ懸念スルノ要ヲ見ス唯内地ニ於テハ電流ノ直段高價ナルコト技術ノ幼稚ナルコト等ノ諸點ニ基キ多少生産費ノ昂騰ヲ見ルノ虞アルノミ然レトモ燐寸製造業ノ發展上竝其ノ他諸般ノ關係ヨリ見レハ鹽酸加里ヲ内地ニ於テ製造スルハ之ヲ外國ヨリ輸入スルニ優レルモノタルヤ多言ヲ要セサルナリ

○委員子爵稻垣太祥　「クロール」酸加里製造ノ原料タルヘキ鹽化加里ハ内地ニ於テハ産出スルコトヲ得サルヤ

○政府委員岡實　前述ノ如ク内地ニ於テハ鹽化加里ハ沃度製造ノ副産物トシテ少量ノ生産ヲ見ルニ止マルヲ以テ到底工業上ノ需要ニ應スル能ハス從テ燐寸製造ノ原料タル「クロール」酸加里ヲ直接ニ外國ヨリ輸入スル所以ナリ若現行法ノ改正ニ依リ鹽化加里ノ輸入ヲ無稅トセムカ當業者ハ直ニ之ヲ輸入シテ「クロール」酸加里ノ製造ニ從事スヘク從テ我國ノ貿易上裨益スル所尠カラサルヘシト信ス是レ政府カ本案ニ贊成スル所以ナリ

○委員子爵稻垣太祥　現今我國ニ於テ工業上ニ要スル「クロール」酸加里ノ數量ト將來輸入セムトスル鹽化加里ノ數量トハ約幾許ナリヤ

○政府委員岡實　「クロール」酸加里ノ需要高ハ約六百萬斤ナリ而シテ此ノ數量ノ「クロール」酸加里ヲ製造セムニハ約三千八百噸ノ鹽化加里ヲ要ス而シテ現今內地ニ生產セラルル鹽化加里ハ僅ニ千五百噸ニ過キス從テ我國工業界ノ需要ヲ滿タサムニハ茲ニ二千三百噸ノ不足額ヲ外國ニ仰カサルヲ得ス而シテ現今「クロール」酸加里ノ輸入金額ハ百二十萬圓ナレトモ若鹽化加里ノ輸入ノミナリトセハ僅ニ三十萬圓ニテ足レリ是レ鹽化加里ヲ輸入シテ「クロール」酸加里ヲ內地ニ於テ製造スルノ優レル所以ノ一ナリ尙兩者ノ一「ポンド」ノ價ヲ示セハ左ノ如シ

鹽化加里　一「ポンド」ニ付　金　四　錢

「クロール」酸加里　一「ポンド」ニ付　金　十　六　錢

○委員子爵稻垣太祥　內外國ニ於ケル鹽化加里ノ價ノ比較如何

○政府委員岡實　內地ニ於テハ鹽化加里ノ價ハ頗低廉ニシテ金一圓ニ付四貫目ナレトモ外國品ハ無稅トスルモ一圓ニ付二貫八百匁ナリ故ニ工業上ノ需要ニ對シテモ第一ニ內地品ヲ使用シ唯其ノ不足額ヲ外國輸入ニ俟ツノ要アルノミ

○委員子爵稻垣太祥　政府委員ハ先ニ沃度ノ處分方法ニ困難ヲ伴フヲ以テ多量ノ鹽化加里ヲ製造スルコトヲ得スト言ハレシモ寧他ノ方法例ヘハ坑ヲ掘ル等ノ方法ニ依リ之ヲ生產スルノ途ナキヤ如何

○政府委員岡實　海藻ヲ原料トスル以外ニ鹽化加里ヲ製造スルノ途ナシ換言スレハ沃度製造ノ副業トスル以外ニ於テハ內地ニ於テ鹽化加里ヲ採取スルノ方法ナシ

○委員長伯爵大原重朝　質問ナキヤヲ諮ヒ質問ナキヲ以テ本案ヲ討議ニ付スヘキ旨ヲ宣告ス

○委員長伯爵大原重朝　本案ハ之ヲ可決ト認メ異議ナキヤヲ諮フ

異議ナシ

○委員長伯爵大原重朝　全會一致ヲ以テ本案ヲ可決シタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會　午前十一時十五分

（附記）　同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

關稅定率法輸入稅表中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月十五日

右特別委員長

伯爵　大　原　重　朝

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長　伯爵　大原重朝印

副委員長　　　平山靖彥印

水利組合法中改正法律案特別委員會

委員選擧

○明治四十五年三月十二日議長ノ指名ヲ以テ水利組合法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵　萬里小路通房

子爵　京極高備

子爵　野村益三

　　　小野田元凞

　　　小牧昌業

男爵　毛利五郎

　　　三宅秀

　　　何禮之

　　　兒玉淳一郎

委員長及副委員長選擧

○明治四十五年三月十四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長　子爵　京極高備
副委員長　小野田元凞

會議

第一回　明治四十五年三月十四日

出席委員

委員長　子爵　京極高備　　副委員長　小野田元凞
委員　伯爵　萬里小路通房　　同　子爵　野村益三
同　小牧昌業　　同　三宅秀

出席政府委員

内務省神社局長　井上友一
大藏省主稅局長　菅原通敬

開會　午前十時三十分

○委員長子爵京極高備　開會ヲ宣告ス

（參照）

水利組合法中改正法律案

水利組合法中左ノ通改正ス

第九條ノ二　水利組合ノ事業施行ノ爲灌漑排水ヲ爲ス土地ニ付登記又ハ登錄ヲ爲ストキハ登錄稅ヲ免除ス

○委員小野田元凞　本案ニ對スル內務省當局者ノ意見如何

○政府委員井上友一　內務省ニ於テ斯カル法律案カ必要ニシテ闕クヘカラサルコトヲ認ムルニ於テハ敢テ衆議院ヨリ提出セラルルヲ俟タス大藏省ト協議シテ政府ヨリ提出スヘカリシナリ茲ニ大藏內務兩省ニ於テ未協議ヲ遂ケサル事項ニ關シ本員一個ノ意見ヲ開陳スルハ不可ナリト信ス要スルニ本案ハ主トシテ登錄稅ニ關スルコトナレハ大藏省所管事務政府委員ニ質問アラムコトヲ希望ス

○委員伯爵萬里小路通房　水利組合員ニシテ自己ノ地所等ニ付或種ノ事業ヲ企圖シタル場合ニ於テモ亦本案ニ依リ登錄稅ヲ免スルコトアリヤ

○政府委員菅原通敬　水利組合ノ事業ハ法律ニ依リテ一定ス故ニ組合員カ組合事業施行ノ爲灌漑

排水ヲ受クヘキ自己ノ土地ニ付各自ニ開墾等ヲ爲スハ組合ノ事業トハ何等ノ關係ナキモノニシテ自家獨立ノ事業ナリ斯カル場合ニ其ノ事業ヲ爲シタル者カ水利組合員タリトノ故ヲ以テ登錄税ヲ免除セラルルハ理由ナキコトナリ

○委員伯爵萬里小路通房　然ラハ其ノ事業ハ組合ヲ離レタル個人ノ事業ナルカ故ニ免税スルコトヲ得ストノ謂ナルカ

○政府委員菅原通敬　然リ登記登錄ヲ爲ス場合ニハ總テ課税セラルルヲ原則トス之カ例外ハ政府自己ノ爲ニスル登記又ハ公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ノ登記等ノ場合ナリ故ニ個人カ各個ニ事業ヲ企圖シ之カ登記ヲ爲スニ際シ登錄税ヲ免スルハ其ノ理由ヲ發見スルコトヲ得ス論者或ハ耕地整理ノ場合ト比較シテ免税ヲ主張スト雖耕地整理ハ耕地整理組合ニ於テ之ヲ經營スルモノニシテ個人ノ事業ニアラサルノミナラス二者事業ノ性質ヲ異ニス故ニ假令法律ヲ以テ耕地整理ノ事業ニ付登錄税ヲ免除セラルルモ單ニ水利組合ノ事業ニアラサル事業ニ向テ租税ヲ免除スルハ全然其ノ理由ナシト信ス

○委員三宅秀　政府ハ嘗テ水利組合事業ニ對スル登錄税ヲ免除セラレタシトノ請願ヲ受理シタルコトアリヤ

○政府委員菅原通敬　政府ハ未タ斯カル請願ヲ受理シタルコトナシ抑本案制定ノ動議ハ徳島縣下ニ於ケル水利組合ノ事業ニ發スルモノニシテ該組合ニ於テ事業ニ失敗シ組合員ノ負擔重クナリタル爲之ヲ救濟セムト欲シタルニ原因セリ而シテ此ノ一箇ノ組合事業ノ爲ニ法律ヲ變更シテ全國ニ適用セムコトハ政府ノ堪フル能ハサル所ナリ若此ノ場合ノ免税ニ同意セハ延イテ其ノ他ニモ權衡ヲ保タシメサルヘカラサル結果二千四百餘萬圓ノ登錄税ハ大半減失スルニ至ルヘシ

○委員小野田元熈　耕地整理ハ法人ニ限ラス一個人ニテモ之ヲ行フ場合アリ此ノ場合ニハ公共團體ニ準スルカ

○政府委員菅原通敬　耕地整理組合ハ法律上法人ト爲ストアリ故ニ公法人ナリ個人カ耕地整理ヲ行フモ之ヲ公法人トハ謂フヘカラス

○委員伯爵萬里小路通房　現今水利組合ノ數ハ幾何アリヤ

○政府委員菅原通敬　普通水利組合二千二百五十三水害豫防組合八百一合計三千五十四アリ

○委員伯爵萬里小路通房　本案ノ關係スル所ニ依リ登錄税ヲ免除スルトキハ登錄税ハ現在ノ徴收額ヨリ幾何ヲ減少スルコトトナルカ

○政府委員菅原通敬　登錄税ノ收入二千四百餘萬圓中不動産ノ登記ニ屬スル部分千七百餘萬圓ア

リ此ノ内ニテ本案ニ直接關係アル税額ハ直ニ明言シ難キモ本案發議者ハ七八萬圓ニ過キスト稱ス然レトモ前述セル如ク本案制定ノ結果彼此權衡ヲ保タシムルノ必要ヲ生シ他ノ税目ニ於テ免税ヲ同意スルノ已ムヲ得サルニ至ラハ登錄税ノ收入ヲ減スルコト實ニ莫大ノ額ニ達スヘシ

○委員小野田元熈　本員ハ政府當局者ニ於テ他日税法ヲ改正スル場合ニ此ノ問題ニ付愼重調査ヲ遂ケ以テ適當ノ施設アラムコトヲ希望シテ原案ニ反對ス

○委員長子爵京極高備　本案ヲ表決ニ付ス

否決

○委員長子爵京極高備　散會ヲ命ス

散會　午前十時五十五分

（附記）同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

水利組合法中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月十四日

右特別委員長　子爵　京極高備

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長　子爵　京極高備　印

副委員長　小野田元熈　印

朝鮮總督府判事ノ恩給ニ關スル法律案特別委員會

委員選擧

○明治四十五年三月十六日議長ノ指名ヲ以テ朝鮮總督府判事ノ恩給ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

子爵　勘解由小路資承
子爵　青木信光
男爵　岡内重俊
男爵　杉溪言長
男爵　島津隼彦
千頭清臣
馬屋原二郎
植竹三右衛門
麻生太吉

委員長及副委員長選擧

○明治四十五年三月十八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 子爵 勘解由小路資承

副委員長 千頭清臣

會議

第一回 明治四十五年三月十八日

出席委員

委員長 子爵 勘解由小路資承　副委員長 千頭清臣

委員 子爵 青木・信光　同 男爵 島津隼彦

同 馬屋原二郎　同 麻生太吉

出席政府委員

拓殖局部長 江木翼

開會 午前十一時二十五分

○委員長子爵勘解由小路資承 開會ヲ宣告ス

（參照）

朝鮮總督府判事ノ恩給ニ關スル法律案

朝鮮總督府判事ノ退職ハ官吏恩給ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ之ヲ退官ト看做ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前退職シタル者ニモ之ヲ適用ス

○委員子爵勘解由小路資承 本案ニ付政府委員ノ説明ヲ求ム

○政府委員江木翼 昨年五月朝鮮總督府裁判所令ニ改正ヲ加ヘラレ裁判所構成法第七十四條ニ於ケルカ如ク朝鮮總督府判事ニシテ精神若ハ身體ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ朝鮮總督ハ高等法院ノ總會ノ議決ヲ經テ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得ルコトトナレリ而シテ此ノ退職判事ニ對シ官吏恩給ニ關スル法規ヲ適用セムトセハ法律制定ノ必要アルヲ以テ本案ヲ提出シタルナリ

○委員麻生太吉 朝鮮總督府判事ハ内地ノ裁判所ニ於ケル判事ヨリモ多額ノ俸給ヲ受クト謂フ果シテ然ラハ退職後恩給ヲ受クルニ當リテモ亦其ノ額内地ノ裁判所ノ判事ノ受クルヨリ多額トナリテ彼此不公平ノ結果ニ陷ルコトアラサルカ

○政府委員江木翼　朝鮮總督府判事ハ加俸ヲ受クト雖本俸ノ額ハ內地ノ裁判所ノ判事ノ受クル額ト同一ナリ而シテ恩給ハ本俸ヲ基礎トシテ支給セラルルヲ以テ彼此不公平ノ結果ヲ生スルコトナシ

○委員千頭清臣　本法制定ノ結果內地ノ官吏ニ影響ヲ及ホスコトナキヤ

○政府委員江木翼　影響ヲ及ホスコトナシ

○委員馬屋原二郎　退職ヲ退官ト看做ストセハ復職ノ場合ノ關係如何

○政府委員江木翼　恩給ニ關スル法令ノ適用ニ付テノミ單ニ退職ヲ退官ト看做スナリ

○委員長子爵勸解由小路資承　他ニ質問ナキヲ以テ本案ヲ討議ニ付ス

○委員馬屋原二郎　本案ハ朝鮮總督府判事ヲシテ恩給ノ關係上內地ニ於ケル裁判所ノ判事ト同一ノ待遇ヲ受ケシメムトスルモノニシテ公平ナルヲ以テ本員ハ本案ニ贊成ス

○委員千頭清臣　本員モ本案ニ贊成ス

○委員長子爵勸解由小路資承　他ニ意見ナキヲ以テ本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長子爵勸解由小路資承　散會ヲ命ス

散會　午前十一時四十分

（附記）同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

朝鮮總督府判事ノ恩給ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月十八日

右特別委員長
子爵　勸解由小路資承

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長　子爵　勸解由小路資承印
副委員長　千頭清臣印

保險業法中改正法律案特別委員會

委員選擧

○明治四十五年三月十六日議長ノ指名ヲ以テ保險業法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵　柳澤保惠
子爵　加納久宜
子爵　一柳末德
男爵　辻新次
男爵　武井守正
男爵　若王子文健
室田義文
日高榮三郎
伊藤由太郎

委員長及副委員長選擧

○明治四十五年三月十八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長　男爵　辻　新次

副委員長　男爵　武井守正

會議

第一回　明治四十五年三月十八日

出席委員

委員長　男爵　辻　新次　　副委員長男爵　武井守正

委員　子爵　一柳末德　　同　男爵　若王子文健

同　室田義文　　同　日高榮三郎

同　伊藤由太郎

出席國務大臣

農商務大臣　男爵　牧野伸顯

出席政府委員

司法省民事局長　齋藤十一郎

農商務省商務局長　大久保利武

農商務省參事官　織田一

開會　午前十一時二十四分

○委員長男爵辻新次　開會ヲ宣告ス

（參照）

保險業法中改正法律案

保險業法中左ノ通改正ス

第四條ニ左ノ但書ヲ加フ

但生命保險ヲ目的トスル會社ハ生命保險ノ再保險ヲ爲スコトヲ得

第四條ノ二　保險會社カ免許ヲ申請シタル場合ニ於テ主務官廳ハ必要ト認ムルトキハ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

會社ハ主務官廳ノ認許シタル有價證券ヲ以テ前項ノ供託金ニ代フルコトヲ得

第五條中「損害保險ヲ目的トスル會社」ヲ「保險會社」ニ改メ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

五　財產ノ利用方法ヲ記載シタル書類

第六條　削除

第八條中「及ヒ第六條」ヲ削ル

第九條中「並ニ第六條」ヲ削ル

第十一條中「其事業ノ停止」ヲ「財産ノ供託若クハ事業ノ停止」ニ改ム

第十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

主務官廳ハ清算事務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ檢査シ財産ノ供託ヲ命シ其他監督ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十三條ノ二　保險會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳ハ清算人ヲ選任ス

商法第八十九條、第九十九條ノ六及ヒ第二百二十六條第二項ニ定ムル清算人ノ選任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス此場合ニ於テハ利害關係人ノ請求ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得

商法第九十三條ノ二第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

主務官廳ハ監査役又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主若クハ十分ノ一以上ノ社員ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得但此請求ヲ爲ス社員ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ主務官廳ハ前項ノ請求ナクシテ清算人ヲ解任スルコトヲ得

商法第二百二十八條第二項ノ規定ハ保險會社ノ清算人ニハ之ヲ適用セス

第十三條ノ三　前條ノ規定ニ依リ清算人ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ主務官廳之ヲ定ム

第二十條ノ二　會社ハ契約ヲ以テ責任準備金算出ノ基礎ヲ同クスル保險契約ノ全部ヲ包括シテ他ノ會社ニ移轉スルコトヲ得

會社ハ前項ノ契約ヲ以テ會社財産ヲ移轉スヘキコトヲ定ムルコトヲ得但主務官廳カ其會社ノ債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ト認ムル財産ヲ留保スルコトヲ要ス

第一項ノ契約ハ各會社ニ於テ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ保險契約ヲ移轉セントスル會社ニ在リテハ商法第二百九條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條ノ三　保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ移轉契約ノ要旨及ヒ各會社ノ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ公告ニハ保險契約者ニシテ異議アラハ一定ノ期間內ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ附記スルコト